

2013年度 事業報告書

学校法人 神戸女学院



はじめに



学校法人 神戸女学院
理事長・院長 森 孝一

神戸女学院は今年、創立139年を迎えます。自由を愛し、民主的な組織運営を尊重するアメリカ・プロテスタント教会の一教派である会衆派教会の海外宣教組織「アメリカン・ボード」によって、1875年（明治8年）に、神戸に設立されました。

高等教育機関となった神戸女学院は、1933年（昭和8年）に現在のキャンパスである西宮市岡田山に移転いたしました。昨年は岡田山へのキャンパス移転80周年にあたり、記念シンポジウムと見学会には1,000名を超える参加者を迎えることができました。国の「登録有形文化財」に登録されたヴォーリズ設計による校舎群と岡田山の豊かな自然は、本学院の貴重な財産であるだけでなく、キャンパス自体が情操教育のための資産となっています。

神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」は、本学院の教育目標を表現しています。キリスト教を基本とする人格教育を教育の中心に置き、獲得した知識や技術を自分のためだけに用いるのではなく、社会、国家、世界のために貢献することのできる女性を養成すること。これが神戸女学院の教育目標です。

2013年度には大学に、英語能力の更なる向上のために「共通英語教育研究センター」を設置し、2014年度から新たなカリキュラムによる神戸女学院大学の英語教育を始めます。また学生の自発的学修を促すための施設として、図書館に「ラーニングcommons」を開設いたしました。これはいずれも、大学の中長期計画に基づく教育内容と設備の整備の一環です。

施設・設備面では、老朽化した中高部2号館の建て替え工事を2013年度に開始し、2014年6月の完成を予定しています。また、2013年度には、中高部タルカット記念館のバリアフリー化のために、エレベーターを設置いたしました。また大学に関しては、文学館のエレベーター設置と1階トイレの改装、ジュリア・ダッドレー記念館の外装工事を行いました。また総務館内の講堂とソールチャペルの空調設備改修を行いました。

今後も神戸女学院に対しまして、皆さまのより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

I. 法人の概要

1	建学の理念・教育目標	1
2	設置学校・学部・学科等	1
3	ミッションステートメントと基本ポリシー	2
4	校地・校舎	5
5	入学定員・収容定員・在籍者数	7
6	役員・評議員に関すること	9
7	教職員数等に関すること	10
	事務組織図	11
8	法人の沿革	12
	神戸女学院における寄付募集事業について	13

II. 事業の概要

1	大学総括	14
2	中高部総括	15
3	教育・研究	16
4	高大連携	21
5	地域貢献	23
6	その他の事業	27
7	施設・設備	29
8	入試に関する状況	31
9	留学に関する状況	34
10	卒業、修了、満期退学、博士学位授与の状況	37
11	就職・進学状況等	38

III. 財務の概要

1	2013年度決算の概要	43
2	資金収支計算書	43
3	消費収支計算書	46
4	貸借対照表	50
5	財務データの推移	52

IV. 事業計画

1	今後の運営方針及び2014年度予算編成について	55
2	2014年度事業計画	55
3	2014年度予算書	57

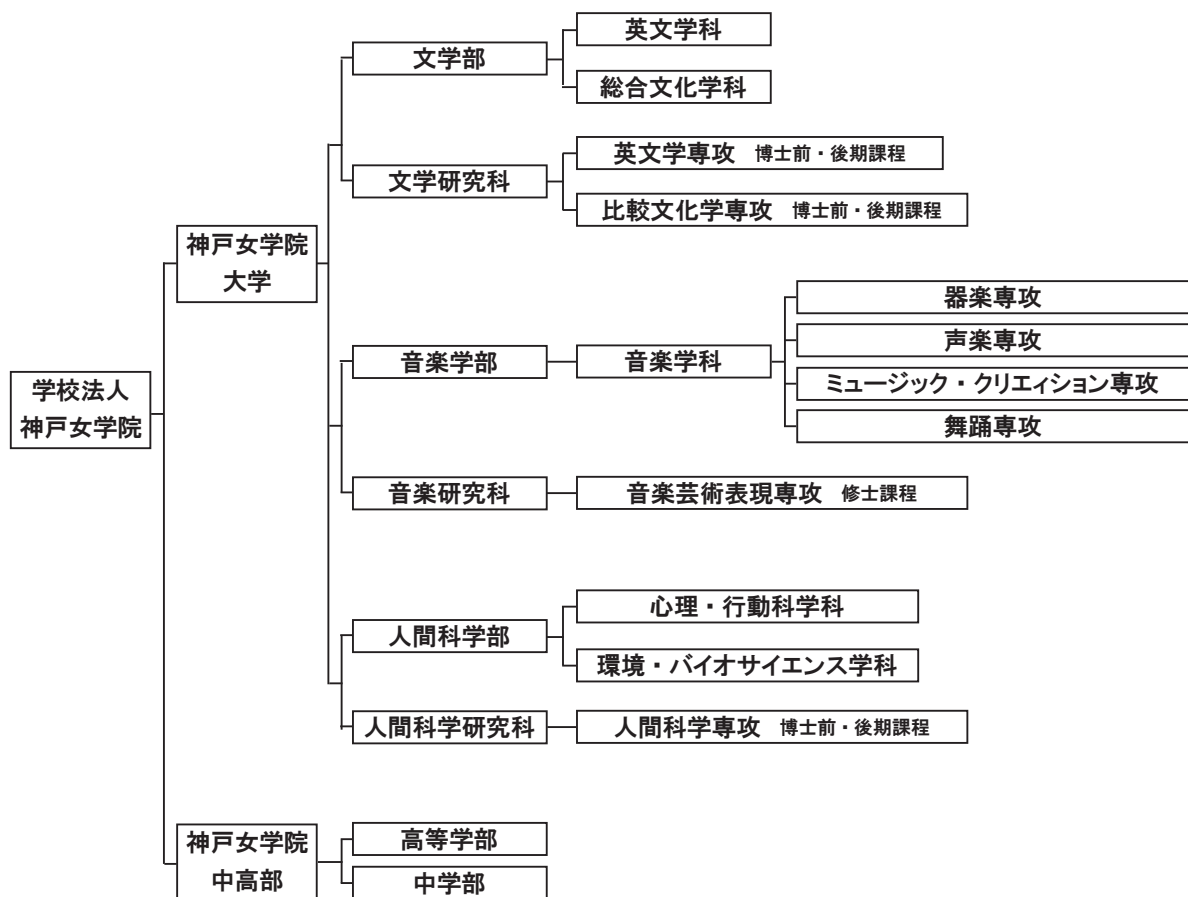
I. 法人の概要

1 建学の理念・教育目標

神戸女学院は、1875年（明治8年）、日本が近代化への一歩を踏み出したその時、アメリカン・ボード中部及び東部婦人伝道会から派遣された宣教師タルカット、ダッドレー両先生によって創立された。当初から、神戸女学院の教育の根幹はキリスト教と国際理解の精神に根ざした全人教育であり、個性を重んじ、自由で自立した教養豊かな女性の育成であった。以来、高い教養と専門的知識、広い視野

と適確な判断力、さらに語学力を育み、神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」の精神のもと、自らが身を置いた時代や環境の中で、自らの使命を自覚し、地域社会や国際社会で活躍する女性を世に送り出してきた。現代も、この建学の精神と基本的教育目標を堅持しながら、急速に変化する社会の要請に対応して、絶えずカリキュラム内容の充実を図っている。

2 設置学校・学部・学科等



3 ミッションステートメントと基本ポリシー

● 大学

ミッションステートメント

神戸女学院大学は、学ぶ者と働く者が共に学院標語「愛神愛隣」に基づくキリスト教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指します。

アドミッション・ポリシー（入学者選考の基本方針）

本学のミッションステートメントとアカデミック・ポリシーをよく理解し、それぞれの学科・専攻の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。本学における学びを通して建学の理念を体得し、与えられた知恵と力を社会に生かして、隣人に仕えることを志す人を迎えます。

アカデミック・ポリシー（カリキュラムの編成方針）

キリスト教主義の歴史ある女性高等教育機関としての伝統に基づき、現代の女性のライフステージの多様さを理解し、幅広い知識と教養と応用力を身につけた共感性の高い人格を養成します。そのために、文学部（英文学科及び総合文化学科）、音楽学部（音楽学科）、人間科学部（心理・行動科学科及び環境・バイオサイエンス学科）を置き、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

1) 基礎学力と教養の習得

専門教育科目の理解を深め、幅広い視野と知識を持つための全学共通科目（主題コース、入門コース、探求コース、外国語、体育学及びキリスト教教育）を必修科目とします。

2) 専門的知識と技術の習得

専門的な知識と技術を体系的に習得するために、各学科に専門教育科目群を設置します。学科の内容に応じた表現能力、課題設定・問題解決能力、コミュニケーション能力を身につけるため、少人数のゼミ教育・実技指導を行います。

3) リベラル・アーツ&サイエンス教育の推進

専門分野を学びつつ、同時に幅広い知識と教養と応用力を身につけるため、学部学科の壁を越えた教育を推進します。学科専門教育科目の一部を探求コース科目として他学科生に開放し、また、副専攻制度を設け、学科横断的な学修機会を提供します。

4) 国際理解の推進

全学を対象に、通訳を養成する教育方法を応用して、英語運用能力を集中的に伸ばす通訳・翻訳プログラムを行います。また、他者との共生を志す国際理解の精神を育むため、海外の大学・諸機関との交流、多彩な留学、研修プログラムなどを実施します。

5) キャリア形成の支援

専門的知識を活かしたキャリア形成のために教育職員免許状（英語、社会、地理歴史、公民、国語、音楽及び理科）や精神保健福祉士の受験資格など、資格取得のための科目群を設置します。また、キャリア形成のための基本的認識を深める科目群を提供します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

神戸女学院大学では次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に対して教授会での審議を経たうえで、卒業が認定されます。

1) 本学の学生が卒業時に備える能力

本学の教育課程を修了した者は体系的に身につけた専門的なものの見方や専門的技術を活かしたキャリアに従事する能力を身につけています。また、専門領域の枠を超えた幅広い教養、表現力、ものの見方、共感性を身につけています。

2) 卒業に値する学生を認定する手段

文学部では卒業論文（英文学科は英文）を担当

教員が審査し、優秀な論文を公表します。

音楽学部では卒業専門実技試験にて審査が行われ、その後、全員が公開の卒業演奏・公演に臨みます。

人間科学部では卒業論文を担当教員が審査し、公開された卒業論文発表会を行います。

キャリアデザインポリシー

神戸女学院大学では「キャリア」を「人が生涯を通じて行う仕事の総体である」(Career is the totality of work in her lifetime)と認識しています。学生は本学での大学生活を通して知識や技術、能力、人間性、主体性を豊かに育みます。卒業後は社会に自立・適応し、生涯多様な女性のライフステージを通じて、置かれた場で、職業人、家庭人、社会人として、社会を創造していきます。学生の豊かなキャリアを実現するため、本学では次の方針に基づき、教職員が協力して各自の進路をデザインする力を養います。

1. 本学の「ミッションステートメント」にあるように、キリストの教えに基づく伝統の中で豊かな人間性を育みます。
2. 本学の「アカデミックポリシー」による学修により、基礎学力と幅広い教養、確かな専門知識と技術、応用力、国際的視野と異文化理解を育みます。
3. 学科の専門教育科目の体系的な履修により、学科の特性を生かした就業分野で社会的に自立できる職業人を育成します。
4. 学科横断的に設けた教育プログラムの履修により、専門教育科目で身につけた知識や技術を創造的に活用する能力や広い視野を涵養します。
5. 求人や企業等に関する情報提供に加えて、個別面談・指導や学年に応じた各種特別講座を充実させ、実践的に支援します。

● 大学院

ミッションステートメント

神戸女学院大学大学院は、学ぶ者と働く者が共に学院標語「愛神愛隣」に基づく基督教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指します。

アドミッション・ポリシー（入学者選考の基本方針）

本学大学院のミッションステートメントとアカデミック・ポリシーをよく理解し、それぞれの研究科・専攻の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。本学における学びを通して建学の理念を体得し、与えられた知恵と力を社会に生かして、隣人に仕えることを志す人を迎えます。

アカデミック・ポリシー（カリキュラムの編成方針）

キリスト教主義の歴史ある女性高等教育機関としての伝統に基づき、現代の女性のライフステージの多様さを理解し、専門的な知識と応用力を身につけた共感性の高い人格を養成します。そのために、文学研究科（修士課程、博士前期・後期課程）、人間科学研究科（博士前期・後期課程）、音楽研究科（修士課程）を置き、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 1) 専門的学術理論・技術の教授と研究、
- 2) 論理的思考力の養成、
- 3) 専門知識と技術の社会的還元、
- 4) 文化・思想・科学の進歩に寄与する独創性の育成

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

神戸女学院大学大学院では次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した大学院生に対して所定の委員会での審議を経たうえで、修了が認定されます。

1) 本学の大学院生が修了時に備える能力

本学大学院の博士前期課程・修士課程を修了した者は体系的に身につけた専門的なものの見方や表現力、専門的技術を活かした教育・研究キャリアに従事する能力を身につけています。また、専門領域の知識や技術を有効に社会に還元するためのものの見方、共感性の高い人格的教養を身につけています。

本学大学院の博士後期課程を修了した者は専門領域のより深い知識と思考力を身につけ、自立した研究者、指導者としての能力を身につけています。

収めた学生には学外で開催する修了披露演奏会で演奏する機会を与えます。副論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。

2) 修了に値する学生を認定する手段

文学研究科では修士論文または修士課題研究を主査および副査が審査し、研究科委員会で合否を判定します。合格した論文または課題研究は公開の場で報告します。博士論文の審査は、研究科委員会で選出された主査および副査による査読、公開の口頭試問を行います。研究科委員会の審議を経たのち、大学院委員会で合否の判定を行います。修士号および博士号を授与された論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。合格した博士論文は3ヶ月以内に論文要旨、審査結果の要旨を学内学術刊行物に公表します。

人間科学研究科では修士論文を主査および副査が審査し、公開された修士論文発表会と審査委員による口頭試問を行い、研究科委員会で合否を判定します。博士論文の審査は、研究科委員会で選出された主査および副査による論文審査、公開の論文公聴会と口頭試問を行います。研究科委員会の審議を経たのち、大学院委員会で合否の判定を行います。修士号および博士号を授与された論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。合格した博士論文は3ヶ月以内に論文要旨、審査結果の要旨を学内学術刊行物に公表します。

音楽研究科では修了作品または修了演奏を専門教員全員と外部から招聘した審査員により公開のもとで審査し、副論文は主査と副査が審査します。合否は研究科委員会で判定します。優秀な成績を

4 校地・校舎

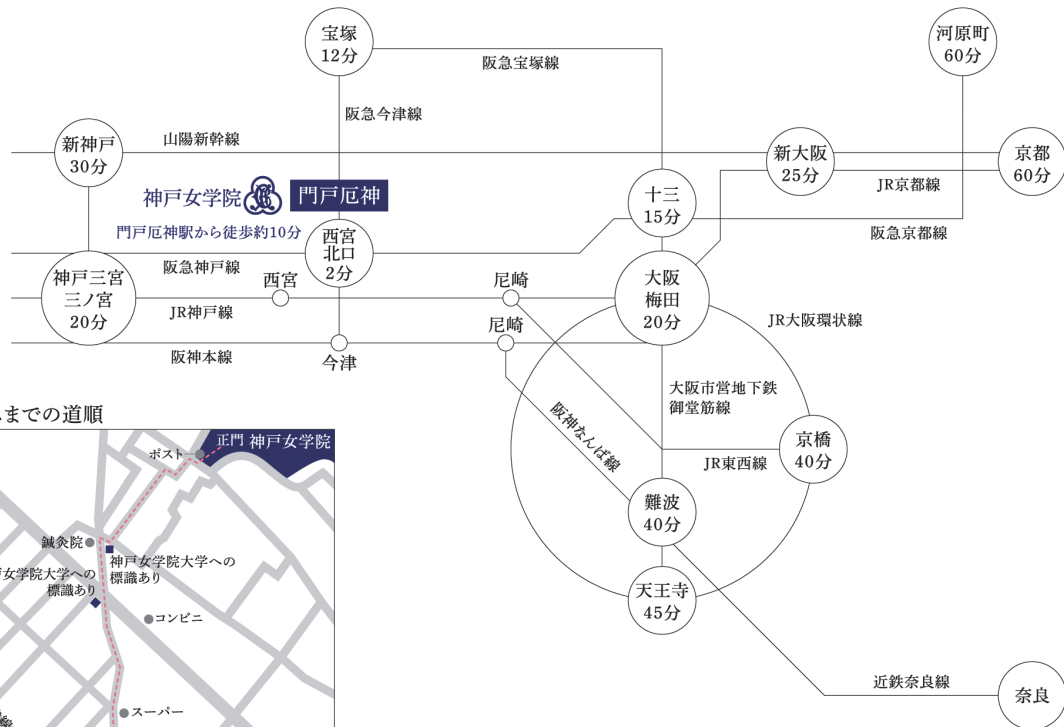
● 岡田山キャンパス

所在地 西宮市岡田山4番1号

校地面積 141,267.91㎡



■ 最寄り駅「門戸厄神」駅までの所要時間(目安)



■ キャンパスまでの道順



● Kobe College International Students House

所在地 西宮市岡田山1-3-1

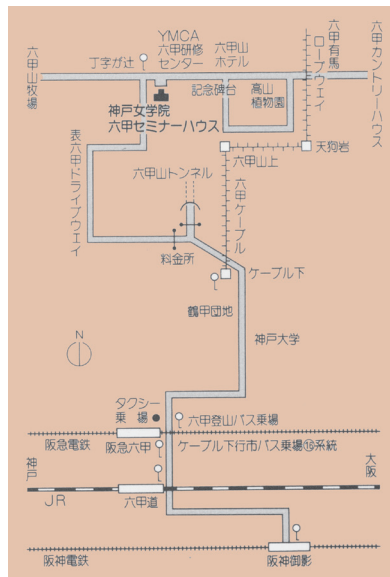
敷地面積 696.10㎡



● 六甲セミナーハウス

所在地 神戸市灘区六甲山町1043-8

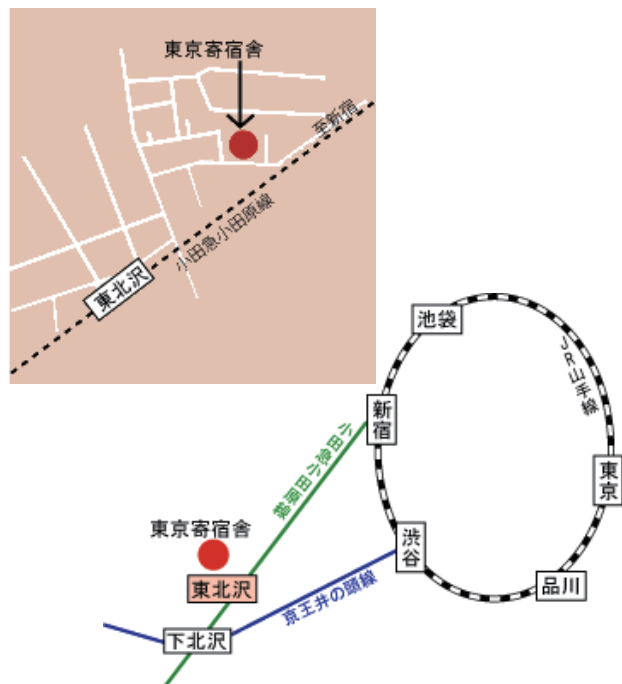
敷地面積 1,501.65㎡



● 東京寄宿舍クローバーハウス

所在地 東京都渋谷区大山町8-7

敷地面積 367.46㎡



5 入学定員・収容定員・在籍者数

2013年5月1日現在

●神戸女学院大学		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学部					
英文学科		140	163	560	680
総合文化学科※1		200	220	760	926
	計	340	383	1,320	1,606
音楽学部					
音楽学科※2		46	53	188	206
	(編入)1		0		
人間科学部					
心理・行動科学科※3		90	97	350	412
環境・バイオサイエンス学科		80	90	320	372
	計	170	187	670	784
	大学 計	556	623	2,178	2,596
	(編入)1		0		

※1 2012年度より総合文化学科の入学定員を180名から200名に増員

※2 2012年度より音楽学科の一年次入学定員を47名から46名とし、編入学定員を1名に変更

※3 2011年度より心理・行動科学科の入学定員を80名から90名に増員

●神戸女学院大学大学院		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学研究科					
英文学専攻	博士前期課程	13	4	26	15
	博士後期課程	2	1	6	2
比較文化学専攻	博士前期課程	5	5	10	11
	博士後期課程	2	0	6	1
	計	22	10	48	29
人間科学研究科					
人間科学専攻	博士前期課程	10	10	20	18
	博士後期課程	2	1	6	2
	計	12	11	26	20
音楽研究科					
音楽芸術表現専攻	修士課程	7	4	14	11
	大学院 計	41	25	88	60

●神戸女学院中高部		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
中学部		135	141	405	416
高等学部	全日制課程 普通科	—	— ※1	405	429※2
	中高部 計	135	141	810	845

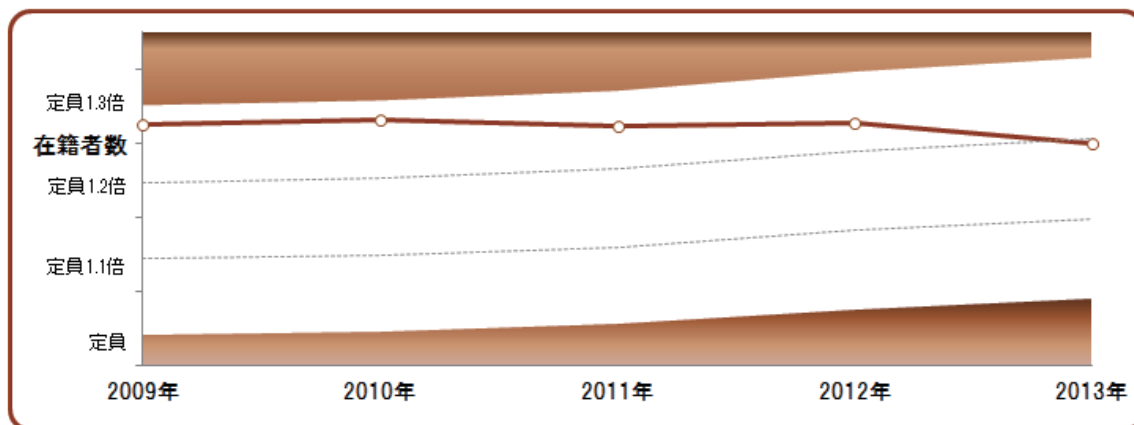
※1 高等学部は内部進学者のみ

※2 海外からの留学生（期間1年）を含む

● 在籍者数推移

神戸女学院大学

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
文学部	1,651	1,679	1,656	1,653	1,606
音楽学部	213	211	212	205	206
人間科学部	786	772	775	795	784
計 (A)	2,650	2,662	2,643	2,653	2,596
定員 (B)	2,078	2,088	2,108	2,148	2,178
(A) / (B)	1.28	1.27	1.25	1.24	1.19



神戸女学院大学大学院・修士・博士前期課程

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
文学研究科	22	33	42	35	26
人間科学研究科	25	21	18	19	18
音楽研究科	14	14	14	14	11
計	61	68	74	68	55

神戸女学院大学大学院 博士後期課程

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
文学研究科	15	10	5	3	3
人間科学研究科	1	1	1	2	2
計	16	11	6	5	5

神戸女学院中高部

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
中学部	436	436	423	420	416
高等学部	440	441	438	429	429
計	876	877	861	849	845

6 役員・評議員に関すること

2013年5月1日現在

理事		定員	現員	
第1号理事	院長(理事長)	1	1	森孝一
第2号理事	学長	1	1	飯謙
第3号理事	中高部長	1	—	森孝一(兼任)
第4号理事	めぐみ会※1推薦会員で 理事会選任	3	3	橋本恵里子 伊藤良子 上紀子
第5号理事	評議員会選任	2	2	石割初子 西澤他喜衛
第6号理事	コーポレーション※2推薦で 理事会選任	3	3	原田恵子 伊藤栄子 斉藤言子
第7号理事	理事会選任学識経験者	4	4	家近正直 柴谷享一郎 安場耕一郎 吉富正夫
総数		15	14	
監事		2	2	野木芳子 澤田磐雄

評議員		定員	現員	
第1号評議員	理事会選任学識経験者	11	11	橋本恵里子 石田忠範 磯部卓三 伊藤良子 松本眞千子 西澤他喜衛 佐藤容子 竹中禮子 辻毅一郎 植木龍夫 吉富正夫
第2号評議員	めぐみ会推薦会員で 評議員会選任	8	8	石割初子 松本美耶子 中川玲子 大橋悦子 尾崎日佐子 杉本雅代 転法輪真理 梅田玲子
第3号評議員	理事会推薦教職員で 評議員会選任	8	8	古庄高 小林哲郎 斉藤言子 船橋昭 林真理子 北田京子 井出敦子 住野秀樹
第4号評議員	コーポレーション推薦で 評議員会選任	4	4	馬場美奈子 伊吹寛子 Martha Mensendiek 杉浦剛
総数		31	31	

※1めぐみ会…

正式名称「公益社団法人神戸女学院教育文化振興めぐみ会」は、キリストの教えに基づく神戸女学院の立学の精神を重んじて、その教育の振興を助成し、会員の教養を高め相互の親睦を図るとともに、社会に貢献することを目的とした組織です。めぐみ会の主たる会員は、神戸女学院が設置した学校の卒業生です。(在校生は準会員)なお、2014年4月1日より正式名称を「公益社団法人神戸女学院めぐみ会」と改称します。

※2コーポレーション…

正式名称「Kobe College Corporation」は、神戸女学院の維持管理と募金のためにアメリカ合衆国イリノイ州シカゴに設立された財団であり、1920年の設立時より現在に至るまで本学院のための募金活動を続け、現在では主に、中高部英語教員や大学客員教員の派遣、本学学生への海外インターンシップの機会提供、奨学金などの支援を行っています。

7 教職員数等に関すること

● 在籍教職員数

2013年5月1日現在

	教授	准教授	専任講師	助教	任期制教員	特任教授	特任助教	客員教員	客員研究員	特別客員	計
英文学科	9	5	3	0	0	0	0	0	0	0	17
総合文化学科	15	6	4	0	0	0	0	0	1	0	26
音楽学科	9	1	1	0	2	0	0	2	0	0	15
心理・行動科学科	3	5	1	0	1	0	0	0	0	0	10
環境・バイオサイエンス学科	9	2	0	0	0	0	1	0	0	0	12
一般(体育)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
共通英語教育センター	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	48	20	9	0	3	0	1	2	1	0	84

	教諭
高等学部	21
中学部	20
計	41

	専任事務職員	専任労務職員	契約職員	計
法人	16	1	2	19
大学	45	0	2	47
中高部	5	0	0	5
計	66	1	4	71

	嘱託事務職員	嘱託教学職員	計
週5日	0	0	0
週4日	20	10	30
週3日	2	5	7
週2日	0	4	4
計	22	19	41

● 在籍教職員数推移

		2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
大学	専任教員	84	87	86	83	84
	非常勤講師	342	333	340	338	338
	大学計	426	420	426	421	422
中高	専任教員	42	41	39	41	41
	非常勤講師	19	23	24	23	22
	中高計	61	64	63	64	63
計		487	484	489	485	485

学院	専任職員※	71	70	72	70	71
	嘱託職員	35	36	36	36	41
	計	106	106	108	108	112

※契約職員含む

8 法人の沿革

1873年(明治6年) 米国で教育者としての経験を持っていたタルカット、ダッドレー両宣教師は、3月に来日し、10月、神戸花隈村に私塾を開く。

1875年(明治8年) 創立 山本通に女子寄宿学校を開校。「女学校」と呼ばれる。英語名はGirls' School。初代校長はタルカット、舎監はダッドレーで、当初の学生数は26名(寄宿生3名、通学生23名)。

1879年(明治12年) 校名を「英和女学校」とし、5年制の課程を定めカリキュラムを整備。

1885年(明治18年) 高等科(1年)、および校章を定める。三つ葉のクローバーをかたどった校章は、身体、精神、靈魂の一致調和した完全な人格の育成をめざす学院の理想を表現。

1891年(明治24年) 本格的な女子高等教育を開始、3年制の高等科を設ける。この頃「神戸英和女学校」と名のる。

1894年(明治27年) 「神戸女学院(Kobe College)」と改称。名実ともにCollege(女子高等教育機関)となる。

1906年(明治39年) 教育課程を改正。また、新たに音楽科を置く。

1909年(明治42年) 専門学校令により「専門部(4年制)」(当時の女子高等教育の最高水準)設置認可。

1919年(大正8年) 専門部を「大学部」と改める。予科1年・本科3年を置く。

1933年(昭和8年) 西宮市岡田山に移転。伝道者・建築家ヴォーリズによってスパニッシュ・ミッション様式の校舎が完成。現在の文学館、理学館、図書館本館、音楽学部1号館、講堂・ソールチャペルを含む総務館などは当初の建物。

1948年(昭和23年) 学制改革により4年制の新制女子大学—「神戸女学院大学」が認可され、文学部(英文学科、社会学科、家政学科)を設置。

1949年(昭和24年) 新制の音楽学科を設置。1952年には音楽学部の認可を受ける。

1965年(昭和40年) 大学院文学研究科(修士課程) 英文学、社会学専攻を設置。

1967年(昭和42年) 家政学科が独立して家政学部となる。

1975年(昭和50年) 創立100周年を迎える。

1976年(昭和51年) 文学部社会学科を改組して総

合文化学科とする。

1980年(昭和55年) 大学院の整備・充実が進む。大学院文学研究科(修士課程)に日本文学専攻を設置。

1989年(平成元年) 大学院文学研究科英文学専攻に博士後期課程を設置。

1990年(平成2年) 音楽専攻科を設置。

1993年(平成5年) 家政学部を改組して、人間科学部人間科学科を設置。(家政学部は募集停止)

1997年(平成9年) 大学院人間科学研究科(修士課程)人間科学専攻を設置。

1999年(平成11年) 大学院人間科学研究科人間科学専攻に博士後期課程を設置。

2000年(平成12年) 創立125周年を迎える。大学院に音楽研究科(修士課程)音楽芸術表現専攻を設置。また大学院文学研究科日本文学専攻を比較文化専攻に改称。

2001年(平成13年) 東京女子大学と相互に学生交流を行う特別聴講制度を開始。

2002年(平成14年) 大学院文学研究科比較文化専攻に博士後期課程を設置。

2004年(平成16年) 大学院文学研究科(博士前期課程)英文学専攻に通訳コースを設置。

2005年(平成17年) 人間科学部に心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科を設置。(人間科学科は募集停止)

2006年(平成18年) 音楽学部音楽学科に舞踊専攻を設置。

2007年(平成19年) 音楽学部音楽学科作曲専攻をミュージック・クリエイション専攻に改組。

2013年(平成25年) 大学院文学研究科社会学専攻を廃止。

神戸女学院における寄付募集事業について

神戸女学院では、「神戸女学院教育振興会」（1998年4月発足）を組織して、寄付募集を行っています。教育振興会は、本学院の教育環境を充実、発展させるための財政基盤を強固なものにすることを目的とし、在校生保護者、同窓生、教職員、旧教職員、役員、法人等を会員として恒久的な活動を行っています。

教育振興会へのご寄付は、次の2つの事業に活用しています。

- ・ 岡田山キャンパス 100周年に向けて2008年5月に策定された「神戸女学院岡田山キャンパス一創建建築保存再生計画」に沿って改修を実施するための費用の一部
- ・ 学生生徒の奨学基金の拡充

2013年度は813件、3,881万4,108円のご寄付をいただき、発足以来の累計が15,523件、10億5,925万8,932円となりました。多くの皆様に尊いご芳志をお届け頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。

寄付募集については、毎年会員各位に寄付の依頼状と払込用紙を郵送しています。また、2013年3月から学校法人神戸女学院と神戸女学院大学のホームページからクレジットカード決済による寄付金のお手続きができるようになりました。引き続き本学院に対するご支援をお願い申し上げます。

神戸女学院教育振興会ホームページ <http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/index.html>

Ⅱ．事業の概要

1 大学総括

2013年度は、4月4日の入学式に学部623名、大学院博士前期（および修士）課程23名、同後期課程2名の新入生を迎えて始まり、2014年3月19日、612名に学士号、22名に修士号、1名に博士号を授与する卒業式をもって閉じられました。2013年4月1日には、数年にわたって準備してまいりました共通英語教育研究センターの開設式を行いました。2014年度からは新カリキュラムがスタートします。そのために卒業要件を124単位から128単位とする学則変更も行いました。また図書館の一部を自発的な学修の場とするラーニングコモンズ化事業も順調に進展しています。当該施設の使用頻度も高く、学生の生活によく溶け込んでいると思えます。振り返りますと、2013年度は前年度に企画・公表した「神戸女学院大学——これからの道標（2012～2022）」を具現化する一年であったと感じます。

上述の「道標」では、神戸女学院大学が「豊かな国際感覚を育む」ことを強調しました。各学科と国際交流センターの尽力により、海外諸大学との活発な交流活動を展開できました。本年度は新たに米国のポーリンググリーン大学、オーストラリアのディーキン大学、ニュージーランドのワイカト大学、フィリピンのアサンブション大学と包括協定を締結しました。それらのうち、ポーリンググリーン大学には本学卒業生の川野朗子先生（大E84）が東アジア語学科の責任者としてお務めです。先生のお骨折りにより、2014年度からは交換学生の長期留学制度（1年）が開始されます。この制度制定に先立ち、2013年7月には同大学オナーズプログラム学生の本学訪問が実現しました。海外の



提携大学からは他にロックフォード大学、梨花女子大学を始め、5グループの訪問がありました。これらの訪問期間は数日から2週間程度で、本学キャンパス内外での講義や現場学修を行います。その学修や交流には女学院生も積極的に参加しました。また本学からは長期（1年）および中期（1学期）で30名の学生が海外の提携大学に留学しています。短期の語学研修も含め120名ほどの学生が海外の大学等に出かけ、その地で本学における学修を深めました。この機会をさらに増やす所存です。

2014年度に向けた教育プログラム改革でもとりわけ力を注いだリベラルアーツ&サイエンス・プログラムの準備も順調に進みました。本学は小規模ながら人文科学系、社会科学から自然科学、さらに芸術系へと幅広い分野をカバーする大学です。同プログラムは、本学のアカデミック・ポリシーの精神に則り、かつ岡田山の学的リソースを十二分に活用して、まともある多角的な学修を可能とするシステムです。2013年度はこのために学修体制の整備を行い、合わせてその内容と基本文献を紹介するサイトを立ち上げました。本学学生のみならず、受験生にも周知されるよう願っています。

その他、2013年8月に文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」に係る調査があり、本学の「建学の精神を生かした大学教育の質向上」に取り組む姿勢が評価され、同事業のタイプ1（大学教育質転換型）に選定されました（選定率35%）。以前にも本項で報告したPDCAサイクルの実践を通し、今後も教育体制を深めるよう努めてまいります。また、同様に中央教育審議会や文部科学省が提唱する大学のガバナンス強化策を受け、副学長の設置、学長裁量経費の創設、戦略的広報の取り組みなどの実施を決定しました。また先年制定した大学の3ポリシーに、2013年度は大学各学部・学科の3ポリシーも加え、教育の目標をいっそう明確にしました。最後に教育環境の整備として、いっそうのバリアフリー化と教室の改修を進めました。長年の懸案であった文学館のエレベーター設置と文学部1号館21号教室の改修が実現したことを報告いたします。

2 中高部総括

中高部の2013年度は、4月1日のJ1（中学部1年）オリエンテーション、J1デイキャンプにより始まりまし
た。4月8日の中学部入学式で141名を、4月9日の
高等学部入学式で141名を迎えてスタートしました。

今年度は諸般の事情で、院長が中高部長を兼任す
る体制で運営してきました。毎朝の礼拝に始まり、体
育祭、文化祭などの諸行事にも、院長が部長として関
わったことで、生徒達、教職員と院長との距離がぐっ
と近くなった1年でした。

夏休みより、1955年以来使用していた2号館を解体
し、「ヴァージニア・クラークソン記念館」を新築する
工事が始まりました。工事中の現在は、授業教室を
やりくりするために、生徒達には不便をかけております
が、毎日着々と立ち上がっていく校舎を見て、皆完成
を心待ちにしています。新校舎は3階建てで、多目的
ホール、英語科のLL教室を2教室、社会科の特別教
室、選択科目などの授業に使う小教室を整備します。
2014年度2学期から使用する予定です。また、新築
工事に付随して1号館とアンジー・クルー館の渡り廊
下を再整備する工事も行っています。

このため、長年親しんできた築山の白梅を1号館側
事務所前入口に移植しました。来年度にはコムセン
ターの改修工事が予定されており、それら一連の工事
が終わると、クラブの部室やクラブ活動をする部屋が
ようやく整うこととなります。

国際交流の面では、2つ報告があります。1つ目は
訪米語学研修旅行のことです。学院創立100周年記
念事業の一環として始まった、KCC-JEEのお世話によ
るホームステイ中心のプログラムで行ってきた訪米研
修旅行は、2007年度で途絶えていました。今年度は
訪米旅行ゆかりの地、ミネソタ・セントポールにあるセ
ントクロイ高校の3週間の語学研修プログラムに参加
する形で復活しました。週末はKCC-JEEのミネソタ在
住石田理事のお世話でホームステイもさせていただきました。

2つ目は、オーストラリアにある姉妹校 Methodist
Ladies' Collegeの訪日旅行団を6年ぶりに受け入れた
ことです。この6年間、新型インフルエンザや東日本
大震災等の影響で訪日旅行団が派遣されませんでした。
久しぶりに交流の機会が与えられ、本校の生徒の
家庭にホームステイし、MLC生も本校の授業やクラブ

に参加しました。今後も、姉妹校提携が続くよう努力
いたします。

学校の広報としては、2010年度以降、全学挙げて
キャンパス見学会、入試説明会を実施してきました。
受験生である小学生やその保護者に、できるだけ神
戸女学院のキャンパスに来ていただき、本校の良さを
アピールすることが狙いでした。昨年度はキャンパス
見学会を2回実施することができましたが、今年度は
講堂使用の関係で大学行事と重なり、1回しか実施で
きませんでした。来年度も状況は変わりません。キャン
パス、特に講堂を中高・大学で共有しているために
仕方がないことですが、実施時期等、今後再検討す
る必要があります。

また、ここ数年中学部入試において、近隣私学の募
集形態の多様化や共学化に伴い、受験者数の減少が
見られます。本校の魅力をどのようにステークホルダー
に伝えていくかが課題です。今年度は中高部の教育
方針や教育目標について教員集会、教職員研修会で
議論を重ねました。そして、その結果を「神戸女学院
中学部・高等学部はこんな学校です」という文章にま
とめました。この文章は中高部のホームページにもアッ
プしています。

今年度の終業日、講堂での教職員送別会の時に、
他のキリスト教主義学校で長年勤務されていた講師の
先生が、本校のことを「奇跡の学校」と称されました。
「今の時代にこんな学校があることに驚きました。毎朝
の礼拝、生徒達の生き生きとした様子、この雰囲気
を保ってきた卒業生、教職員、生徒達に敬意を表します」
ともおっしゃいました。その場にいた生徒達、教職員も
皆、背筋が伸びる気持ちがありました。諸先輩方の
築いてこられた伝統に甘んじることなく、大事な部分
をしっかりと受け継ぎ、変革すべきところは見極めてい
くことが大切です。

2014年度は林真理子教諭が部長となります。中高
部の今後にご加禱をよろしくお願いいたします。

3 教育・研究

ラーニングコモンスの設置

2013年4月、教育長期計画の柱の一つである「自発的な学修」を支援する施設として、図書館新館にラーニングコモンス（LC）がオープンしました。

すでに多くの大学で、図書館を学術情報集積地と捉え直し、利用者がさまざまな形態の情報を自由に駆使して能動的な学習・研究をすすめる、その成果を発信するところまでをも可能にする場所へと改変が進む中、文部科学省の平成24年度私立大学教育研究活性化設備整備費補助金、神戸女学院家庭会大学部会からのご寄付ならびに大学特別予算により、LC設置は実現しました。



図書館新館1階は、可動式の机と椅子を備えたフリーエリア、大机を囲んで議論のできるディスカッションエリア、息抜きのできるソファコーナーに生まれ変わりました。ノートパソコンや小型プロジェクタ等の貸出機器も充実しています。以前からパソコンを利用して自習のできるスペースであった地下1階には、無線LAN設備を整えて1階と同じ可動式机と椅子を配置、LCとして、より利用しやすい場所となりました。1階および地下1階には、蓋付き飲み物の持ち込みを許可しています。さらに、LC設置の一環として4階のグループ学習室にテレビ会議システムを導入、学内外の大学や研究機関とリアルタイムで接続しての共同学習が図書館でも可能になりました。また、図書館本館では、静かで雰囲気の良い環境を生かし、さらに情報アクセスを容易にするべく、無線LANのアクセスポイント新設とタブレット端末の貸出を開始しました。新館のLCは、よりアクティブな学びの場として、本館は集中して学びを深める場として、学生の主体的・能動的な学びを支えるそれぞれの役割を果たすことが期待されています。

す。

LC開設によって、2013年度の図書館新館来館者数は前年比1.3倍に増加しました。次年度以降も、来館者がLC及び図書館をさらに活用できる施設・制度を充実させてゆく予定です。

共通英語教育研究センターの開設

2013年4月1日に川越栄子教授、Kurtis McDonald 准教授を専任教員として新たに発足した組織で、文学館L-19-2室に共通英語教育研究センター事務室を置いています。1、2年生の共通英語教育科目のカリキュラム作成、教科書の選定、非常勤講師の指導と科目運営を担当し、神戸女学院大学における共通英語教育のあり方を研究し、その成果を実践に生かすことをめざしています。2014年度からは1年生の英語の授業時間を週2コマから週4コマに倍増させ、共通英語教育研究センターが中心となって、各共通英語科目間の連携を緊密にすることにしていきます。2013年度はその準備のために、教務委員会、共通英語教育委員会、英文学科、総合文化学科の教員の協力を得て、2014年度センター採用予定の教員人事、1年生が履修する科目群（GE100ab, GE101ab, GE151(1), GE131(2), GE161(2)）のカリキュラム作成、GE151(1)で使用するオリジナルテキストの作成、非常勤講師への新カリキュラムの説明と採用、新しく始める English Honors Program の準備等々の活動を行いました。

また、レベル別副読本を使った「多読」をGE151(1)で取り入れることとし、図書館の協力により約1,600冊の副読本を用意しました。オンライン学習教材 English Central をGE101aで採用しています。学生自らが学ぶ習慣をもたせるために、英語の学習目標と学習内容を記録させる「英語手帳」を英文学科を除く新入生全員に持たせることにしました。これらの新しい取り組みは新任の専任教員に負うところが多くなっています。また、川越教授は自主的な勉強会「English Café」を立ち上げ、全学科の学生を対象に英語学習意欲の向上に努めました。

新カリキュラムをスタートさせるためにさまざまな課題に取り組んだ1年間でしたが、関係各位の協力を頂き、なんとかスタートラインにたどり着きました。

「プロジェクト科目」の開講

文学部総合文化学科では、講義による学びと現地での体験を通して学ぶフィールドワークを組み合わせた「プロジェクト科目」を2013年度より開講しました。以下に5つの「プロジェクト科目」について報告します。

◆沖縄を学ぶ、沖縄で学ぶ◆

6月・7月の講義では、琉球王国の歴史、沖縄の言葉や音楽（民謡）、沖縄戦、特に慶良間諸島における「集団自決（集団死）」について学び、さらに米軍基地について、在外米軍の歴史と現状、世界戦略の中での沖縄の位置づけ、米軍基地のもたらす様々な問題などについて学びました。

そして9月には沖縄本島各地を訪問し、史跡見学や伝統芸能の鑑賞、ひめゆりの塔やアブチラガマ（軍人と一般住民がともに隠れていた壕の代表的なもの）など戦跡も訪問しました。さらに、沖縄戦の体験者から貴重なお話をいただきました。普天間飛行場や嘉手納基地を見学し、辺野古では美しい珊瑚の海を前にして現地で活動をしている方から意見を伺いました。

沖縄という場に実際に身を置いてはじめて見えてくるが多々あります。また、沖縄で暮らしている人々から直接話を聞くことで、新たな視点で考えることができるようにもなります。史跡、戦跡、基地といった場を訪ねることで、学生たちは大きな刺激を受けていたようです。教員にとっても貴重な学びとなりました。

◆ひと・まち・文学◆

複数の文学作品と特定地域との関わりに着目し、その地の歴史や特性を捉え、作品中の表現や作品世界の背景を分析的に学びます。今年度は5月・6月の学内講義（地域社会学・日本古典文学・日本近代文学）及び学内実習（探訪地パンフレット製作）の後、9月に現地探訪に赴き、その後学内発表会を開催しました。

探訪地である京都（嵐山・東山・岡崎方面）では、『平家物語』と『百人一首』、川端康成『古都』に関係する場所を巡りました。現地では履修生が相互に解説をおこない、学内における学びをさらに発展的に体得する過程となりました。発表会では、班ごとに口頭発表をし、成果を分かち合い、半期の歩みをふり返りました。

◆インド人学生に日本文化の魅力を伝える◆

2013年10月にインドの St. Joseph's College から来校した3名の学生に対して、総合文化学科の学生10

名が日本文化紹介の実習を行いました。事前学習では、学生が主体となって日本の伝統文化や現代の若者文化を列挙して、関西地域で体験できる関連施設を探し、実習計画を立てました。また、実習では日本文化を英語で紹介する必要があるため、学生は英語の単語や表現を事前に調べる等の準備を進めました。

初歩的な日本語のレッスン、大阪の企業訪問（文具メーカー社員によるビジネス・マナー講義）、西宮の和紙作り体験（名塩和紙博物館）での逐次通訳、お茶席（キャンパス内の茶室）での作法の解説、京都観光案内、着物の試着やプリクラ撮影、百円ショップやアニメの解説など、約8日間にわたって学内外で文化紹介実習を行いました。来校したインド学生の中には肉食主義者が含まれていたため、ベジタリアンの食事を別途準備する等、食文化の違いについても考える機会がありました。

◆フィールドで学ぶ現代インドの諸問題◆

2013年8月末から9月にかけて、総合文化学科の学生14名（引率教員2名）が、インド南部の主要都市バンガロールおよび近郊の農村で、現代インドの諸問題に関するフィールドワークを実施しました。事前学習では、哲学の視点から「善く生きる」「存在」「潜在能力」をキーワードにして過酷な状況に生きる人々を理解する手掛かりを講義しました。また、地域研究の視点からインドの貧困問題、および、ヒンドゥーの女性に関する伝統的規範についても話をしました。



現地では、ストリートチルドレン、障害のある子ども、貧困の女性を支援する農村の施設を訪問して学びを深めました。また現地の協力校 St. Joseph's College of Commerce のゲストハウスに宿泊しながら、インドの大学生と交流（歌やダンス、食事会など）の機会をもちました。参加した学生は、今回のフィールドワーク

を通して新たな学びの目標を見つける、あるいは、人との触れ合いの意義を再認識する等、体験学習で様々な成果を得ました。

◆戦争と平和を考える◆

東アジアの友好と未来を考える上で、満州事変から日中戦争、アジア・太平洋戦争へとつづく一連の戦争（1931-1945年）への正確な理解は欠かせません。過去の問題を知ることは、現在の問題を考える手がかりに、そして今後の社会を構想する力に繋がります。この科目は、今後の日本を支える若い学生たちに、近現代日本における戦争と平和の問題を深く理解してもらい、自身で考える力を備えて欲しいという期待を込めたものになっています。

授業では3人の教員によるリレー講義を行い、映像や資料も使って戦争をめぐる多面的な問題を確認し、それぞれの知識を深めます。また、京都の立命館大学にある国際平和ミュージアム、大阪の真田山陸軍墓地や「ピースおおさか」へのフィールドワークも行いました。展示内容を見、解説を聞くことで、学生たちは教室での学びを、より深く肌身を通じて理解していきます。そして、最終的なまとめとして、1泊2日の東京学習旅行を行い、「女たちの戦争と平和資料館」、「靖国神社・遊就館」、「しょうけい館」を見学しました。この3つの場所は、同じ戦争を語りながらも、それぞれ視点と評価をまったく違えるものとなっています。学生たちは生々しい展示の内容や証言に強い衝撃を受け、同時に、各人の歴史認識を問い返しているようでした。それまでの学びが、さらに深く捉え返される瞬間と言えます。これは、教員にとっても新鮮な学びの機会となっています。



2013年度 音楽学部定期演奏会

2013年度の音楽学部定期演奏会は、昨年12月3日（火）午後6時30分より兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホールで開催されました。音楽学部定期演奏会は、ほぼ全員の学生が参加し、オーケストラには非常勤の先生や、多くのオーケストラ要員、担当教員以外の教員も役割分担をして当日に臨みました。今回の定期演奏会では、1、2年生の合唱による荘厳なオルバーンの女声合唱とピアノのためのミサ曲第9番（山本哲也非常勤講師指揮、ピアノ伴奏：金沢彩子伴奏要員）に始まり、3、4年生の合唱では43年の長きにわたって本学でご指導下さり本年度末にご退職される澤内崇先生作曲の立原道造の詩による女声三部合唱組曲《黄昏に》（中村健教授指揮、ピアノ伴奏：小原友伴奏要員）が演奏されました。まさに詩と音楽を



一体にすることが出来る澤内先生の手による女声合唱の繊細かつ力強い歌声は、「別れ」というテーマに基づき、日本人の感性に直接訴えかける音楽であり、聴衆に深い感銘を与えました。休憩後には、オーディションで選ばれた廣瀬友瞳さん（大学院音楽研究科2年生）をソリストに迎えて北欧のロマンチックで雄大な風土を余すところなく表現したグリーグのピアノ協奏曲（辻井淳准教授指揮）。舞台空間におけるオーケストラの楽器配置を巧みに利用してオーケストラならではの効果を発揮したベルリオーズの「幻想交響曲」第2楽章「舞踏会」。メゾソプラノの山田愛子非常勤講師を迎えて演奏された、フラメンコなどの様々なリズムが華々しく入り乱れるファリャの舞踊音楽「三角帽子」より（中村健教授指揮）、など様々なジャンルの曲目が演奏されました。例年より多くの805名の方々のご来聴をいただきました。また、当日ロビーでは、学生によって台風で被災したフィリピンのアサンプション大学への募金活動も行われ、集まった79,799円の募金は、学院

から現地に送られました。

第8回音楽学部舞踊専攻公演

去る3月6日、7日に兵庫県芸術文化センター阪急中ホールにて音楽学部舞踊専攻第8回定期公演が行われました。

1回の休憩を挟んだ2部構成で行われたプログラムは、毎年1、2年生によって踊られる Here we are! で幕を開け、その後第6回定期公演にて当時の4年生によって踊られた Bardo を今年は3年生とゲスト男性ダンサーが踊りました。



本学舞踊専攻に入学する約9割の学生がクラシックバレエ出身という中で、入学して1年足らずの学生がコンテンポラリー要素の高い Here we are! を踊りこなすということは、かなり大きなチャレンジですが、2年生の助けと振付指導をする本間非常勤講師の指導のもと、その大きな壁を乗り越えていく姿は毎年繰り返される光景とはいえ我々に清々しい感動を与えてくれます。Bardo はヨーロッパやアメリカのカンパニーのプロフェッショナルカンパニーで踊られている作品で多くの要素を含んだ難易度の高い作品ですが、今年の3年生はそれを見事に踊りこなしました。2部の最初の作品は1、2年生の為に今回新たに振付されたグラハム・マッケルヴィー先生による Songs for the tops of mountains で力強い中にも、マッケルヴィー先生ならではの優しく繊細な情景があり、1部で Here we are! を踊った1、2年生とはまた違った側面をお見せできたと思います。

そしてプログラムの最後は、4年生の為に島崎教授が振付をし今回の公演が初演となった Blue Farewell で幕を閉じました。技術面、体力面で多くを要求される作品でしたが、本学で培ったことを十分にいかし御来場の方々に感動を与えました。両日で約1050名の観客を動員することが出来ました。

ESDプログラムの取組みについて

文部科学省からの助成を受けて、科学技術振興機構（JST）の戦略的環境リーダー育成拠点形成の1つとして実施しているESD（Education for Sustainable Development）プログラム（地域からESDを推進する女性環境リーダー）も、5年目を迎えました。3期生となる5名の留学生は、無事にすべてのプログラム科目を学び終えて、9月に修了式をとりおこない、それぞれの進路に巣立っていきました。それと入れ替わるようにして、4期生5名が来日し、昨年できたインターナショナルハウスで生活をともにしながら、プログラムに取り組んでいます。

11月16日には、「地域・女性・ESD：日本とアジアを結ぶネットワーク」と題して国際シンポジウムを本学エミリー・ブラウン記念館にて開催しました。西宮市長、JSTプログラム主管など来賓による挨拶のあと、午前の部は「ESDプログラムの成果から女性環境リーダーの役割を考える」として、フィリピン、インドネシア、ベトナム、中国、日本の本プログラム講師陣とフィリピン出身の第1期修了生が講演を行いました。続いて午後の部では、本シンポジウムのメインテーマについて、本学教員を含む内外の講演者5名がそれぞれの視点から講演を行いました。講演者の中には、10月より1年間の予定で来日しているブライアン・ドレイク客員教員も含まれています。当日は国内外から約50名の参加があり、全体の質疑応答でも活発な議論が交わされました。ESDを推進していく上での女性の役割が重要であること、また本学のプログラムのような試みは、たとえ小さな規模でも交流を進めていく上で意義があることを改めて認識でき、大きな成果といえるでしょう。年度末には、本シンポジウムの報告集を刊行しました。



3月には日本人学生3名が本プログラムを修了しました。本プログラムは、この年度末をもって助成期間が終了しましたが、2014年度は大学からの補助を得て、4期生は1年間のプログラムをすべて修了できることになっています。

神戸女学院大学第4回絵本翻訳コンクール

多くの高校生に、絵本の翻訳をとおして世界の多様な文化に興味をもってもらい、「神戸女学院大学の翻訳」の認知度を向上させたいとの意図でスタートした本コンクールも今年で4回目。北海道から沖縄まで、昨年を大幅に上回る234校（昨年164校）より1191作品（昨年652作品）もの応募があり、高校生の皆さん、そして指導教員の皆さんの英語教育や絵本翻訳への熱気を感じさせました。

毎年、なじみのない異文化とふれあうことをテーマにしていますが、今年度の課題はアメリカで出版されたMoses Goes to a Concert。耳の聞こえない男の子を主人公に、アメリカ手話(ASL)を正確なイラストで子供にわかりやすく紹介した絵本です。拍手のかわりに手をふる、振動で音楽を楽しむなど、聴者の文化とは異なる「ろう文化」を知って訳すこともポイントの一つ。院長挨拶にあった“Reality is not real.”という言葉のとおり、文化が異なると経験も異なります。応募作もその点に苦労したようですが、受賞作はそれぞれに創意工夫をこらし、立派な作品に仕上がっていました。

今回も審査員3名（卒業生で翻訳家・児童文学者の松岡享子氏、本学の豊倉省子非常勤講師、田辺教授）が審査し、11月16日（土）めじらウンジにおいて、表彰式をおこないました。最優秀賞および優秀賞受賞の2組には、翻訳した作品を製本した「世界に一冊だけの私の絵本」を授与し、朗読していただきました。

受賞校は最優秀賞が横浜共立学園高等学校、優秀賞が静岡雙葉高等学校、佳作は京都府立嵯峨野高等学校、ぐんま国際アカデミー高等部、岡山県立岡山城東高等学校の3校でした。優秀賞の大野織音さんは昨年に続く連続受賞、佳作の嵯峨野高校は一昨年に続く入賞でした。

過去4回の実施を通じ、本学と高校が自然な形で交流を持ち続けることができ、認知度の向上を図るために有効な施策であると判断しており、長く継続する企画に育ててゆきたいと考えています。

神戸女学院岡田山キャンパス移転 80周年記念行事

2013年は、神戸女学院のキャンパスが神戸山本通から、西宮岡田山に移転して80年にあたります。これを記念して、10月12日（土・創立記念日）に、「ヴォーリズ建築の魅力とメッセージ」と題するシンポジウムを開催し、記念誌『神戸女学院岡田山キャンパス—ヴォーリズ建築の魅力とメッセージ』を発行いたしました。

シンポジウムに先立って守られた記念礼拝では、中高部・大学コーラス部により、設計者ウィリアム・メレル・ヴォーリズからのもう一つの贈り物、献堂式のために彼が作詞・作曲した献堂讃美歌が、80年の時を超えて今も同じ佇まいの講堂で披露されました。



シンポジウムは、メインスピーカーに建築家で東京大学教授の隈研吾先生、パネリストに大阪芸術大学教授の山形政昭先生と卒業生で歌人の江戸雪氏をお迎えし、飯謙学長の司会で進行されました。

引き続き、めじらウンジでの茶話会、石田忠範建築研究所代表の石田忠範氏の監修による見学会、図書館本館2階閲覧室での記念展示、そして岡田山キャンパスの建築委員長であり学院の財務主管でもあったハロルド・ハケット氏のご子息から、この日のために届けられたビデオレターによる祝辞の上映会などが開催されました。

この日は好天に恵まれ、岡田山に1,000人を超える方をお迎えして80周年をご一緒にお祝いすることができました。

4 高大連携

文部科学省のすすめている高等学校と大学との接続において、一人ひとりの能力を伸ばすための高大連携施策として、本学においても出張講義（大学教員が高校に出かけ、専門分野別講義を行う）、招聘プログラム（高校生を本学に招き、授業体験、大学

生活体験を提供する）、理学館体験プログラム（人間科学部の研究室、理学館の実験室を体験することでバイオサイエンスを実感してもらう）、聴講プログラム等様々な取組を実施しています。

●出張講義実施状況

担当学科	件数	担当教員
文学部 英文学科	11	立石浩一、田辺希久子、中村昌弘、高村峰生、奥村キャサリン、Nathaniel CARNEY、Susan E. JONES
文学部 総合文化学科	2	渡部充、横田恵子
音楽学部 音楽学科	3	田中修二、佐々由佳里
人間科学部 心理・行動科学科	9	鶴田英也、木村昌紀、小林哲郎、他
人間科学部 環境・バイオサイエンス学科	3	西田昌司、張野宏也、他
計	28	

●招聘プログラム実施状況

	実施日	担当教員	テーマ
和歌山信愛高等学校	11月8日	文学部 総合文化学科 北川将之	現代インドの諸問題を学ぶ ー女性・所得・子ども
大阪女学院高等学校	12月10日	人間科学部 心理・行動科学科 矢野円郁	心理学
上宮高等学校	3月10日	文学部 英文学科 Shawn BANASICK	ゲーム理論囚人のジレンマ

●聴講プログラム実施状況（神戸女学院高等学部対象）

		受講者数	受講科目数	合格者数
2009年度	前期	9	4	7
	後期	13	7	4
2010年度	前期	15	6	3
	後期	1	1	1
2011年度	前期	13	7	10
	後期	12	7	5
2012年度	前期	12	7	10
	後期	10	7	8
2013年度	前期	7	5	3
	後期	4	2	0

●体験プログラム実施状況

	日程	担当教員	講義テーマ	参加者	
環境・ バイオサイエンス 学科	高校教員対象 サイエンス体験	8月2日	野寄玲児 身近な教材、どんぐりを用いた生物学教育	7名	
	サイエンス体験	8月5日	遠藤知二	イチジクと共生コバチの関係を探ろう - 多様な生物を支える微妙な関係? -	12名
			三宅志穂	Sharing Nature 体験 - 自然のようすを感じとってみよう -	11名
		8月24日	寺嶋正明 中川徹夫	生体分子を大きさの違いで分離する。 さまざまな電池をマイクロスケール実験で作ってみよう	15名 14名
	理学館体験	6月22日	張野宏也	学科説明会・施設見学会	18名
		9月16日			20名
		11月23日			20名
		3月21日			20名
	出張講義 県立西宮高校	4月16日	高岡素子	学問研究入門の技術	100名
	動物実験講習会 (マウスの年間 使用匹数:58匹)	6月8日	西田昌司		16名
		6月15日			16名
		11月30日			10名
		12月7日			10名
平成25年度 神戸高校 SSH 特別講義	6月28日	中川徹夫	マイクロスケール実験により、ルシャトリエの原理を学ぼう	43名	
平成25年度 理科授業力練成 講座	8月5日		科学的に探求する力の養成 - 探究活動、課題研究をととして	20名	
オープンキャンパス					
第5回公開 プレゼンテーション 地域創りリーダー 養成プログラム 活動報告会	8月2日	張野宏也	竹でエコっちゃおう! プロジェクト 自然の中で遊ぼう! みんなで作ろう! 飯盒炊さん! ケーキ を作ろう! 友達作ろう! - ベジタブルをベジタブル♪ - 見つけよう! 山の季節♪ みんなでワクワク農体験! - 夏、秋の匂ってなんだろう -	28名	

5 地域貢献

初夏の公開講座 ことばとリズム			
第1回	6月8日	ケータイ短歌と介護百人一首―「和歌」から 安森敏隆氏（同志社女子大学名誉教授）	107名
第2回	6月22日	日本語とリズム 建石 始（文学部総合文化学科准教授）	100名
第3回	6月29日	英詩のリズム 和氣（直田）節子（文学部英文学科教授）	76名
			【のべ参加人数 283名】

秋季公開講座 生命をみつめなおす			
第1回	11月16日	「生老病死」―細胞生物学から見ると― 西田昌司（人間科学部環境・バイオサイエンス学科教授）	144名
第2回	11月23日	「死を考える」―豊かな死生観を求めて― 中野敬一（文学部総合文化学科准教授）	164名
第3回	12月7日	「あなたと私を大切に思い、生きること」―HIV カウンセリングの現場から― 榎本てる子氏（関西学院大学神学部准教授）	133名
			【のべ参加人数 441名】

大学研究所主催 講演会			
6月7日	プラトンの問題と先天的言語能力 栗栖和孝（文学部英文学科准教授）		65名
11月8日	紛争と音楽（1990年代 旧ユーゴの場合） 清水美穂氏（ボスニア史専門家）		70名
			【のべ参加人数 135名】

女性学インスティテュート主催 特別講演会			
5月17日	女性の自立と幸せのために～国際条約をもっと活用しましょう～ 越堂静子氏（ワーキング・ウイメンズ・ネットワーク（WWN）代表）		
			【参加人数 約140名】

女性学インスティテュート主催 連続セミナー 性を売る女、買う男			
第1回	6月14日	聖書に登場する売春女性たち 中野敬一（文学部総合文化学科准教授）	
第2回	6月21日	売買春の日本近現代史 河西秀哉（文学部総合文化学科専任講師）	
第3回	6月28日	売春防止法と風俗営業法の共存 米田真澄（文学部総合文化学科教授）	
第4回	7月5日	戦後日本の性風俗と売春防止法 景山佳代子（文学部総合文化学科専任講師）	
			【受講者 27名 修了証交付 21名】

女性学インスティテュート主催 映画上映会			
10月16日	「311 ここに生きる」 我謝京子氏（ドキュメンタリー映画監督・ライター放送記者）		110名

宗教センターアッセンブリーアワー 金曜日公開プログラム		
4月19日	さんぴかを歌おう♪ 斉藤言子（音楽学部教授）	120名
5月10日	神戸女学院ってこんなところ ―神戸女学院の基礎知識・歴史編― 佐伯裕加恵（史料室職員）	70名
6月14日	名誉学位授与式・公開講演会 ロバート・ヘッド博士（ロックフォード・カレッジ学長）	110名
6月21日	ESD 学生研究発表会 大学院 人間科学研究科	60名
6月28日	オルガンコンサート 片桐聖子（学院オルガニスト・日本基督教団神戸教会オルガニスト・本学卒業生） 前田直子（学院オルガニスト・日本基督教団豊中教会オルガニスト・本学卒業生）	120名
7月5日	デフォレスト先生召天40周年記念礼拝 小西望（日本基督教団仙台北教会牧師）	70名
7月26日	礼拝 中野敬一（大学チャプレン・文学部総合文化学科准教授）	40名
9月27日	礼拝 飯 謙（学院チャプレン・学長）	30名
10月4日	キャンパス移転80周年を覚えて 井出敦子（院長室職員） 佐伯裕加恵（史料室職員）	60名
11月15日	宗教音楽の会 大学院 音楽研究科1年	80名
11月22日	ボランティア・サポート講演会 梅田純平（社会福祉法人大阪ボランティア協会・ボランティアコーディネーター）	60名
12月6日	クリスマスオルガンコンサート 西山聡子（学院オルガニスト・日本基督教団大阪教会オルガニスト・本学卒業生） 追中宏美（日本基督教団須磨教会オルガニスト・本学卒業生）	130名
12月13日	キャロルを歌おう♪ 斉藤言子（音楽学部教授）	90名
2014年 1月10日	新年礼拝 松田央（チャプレン・文学部総合文化学科教授）	45名
1月17日	卒業生による演奏会 松川峰子（ピアノ・音楽学部非常勤講師） 周防彩子（ソプラノ・関西二期会準会員）	90名
【登録人数 181名、のべ参加人数 1,175名】		

文学研究科主催 講演会		
2014年 1月13日	神戸女学院大学大学院文学研究科 通訳・翻訳コース開設10周年記念イベント かいま見る通訳の世界 近藤 正臣氏（大東文化大学名誉教授・モントレイ国際大学院大学客員教授） Yuki Sayeg 氏（会議通訳者） 桑畑 三奈子氏（会議通訳者） 田辺 希久子（文学部英文学学科教授） 中村 昌弘（文学部英文学学科准教授） 奥村 キャサリン（文学部英文学学科専任講師）	87名

音楽学部主催 音楽学部コンサート			
4月18日	2013年度 神戸女学院大学音楽学部新人演奏会	いずみホール	316名
4月24日	神戸女学院大学大学院音楽研究科 第12回 修士課程修了披露演奏会	兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール	200名
6月25日	ベガにオーケストラがやってきた! Vol. 4 ～神戸女学院大学音楽学部オーケストラ in 宝塚～ 〈第20回サマーコンサート〉	宝塚ベガ・ホール	330名
10月2日	第20回 オータムコンサート	兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール	310名
11月14日	神戸女学院大学大学院音楽研究科2年生による 音の饗宴 Vol. 7	宝塚ベガ・ホール	120名
12月5日 12月6日 12月7日13時 12月7日18時	神戸女学院大学音楽学部音楽学科舞踊専攻 第5回 卒業公演	神戸女学院大学 エミリー・ブラウン記念館 地下2階 スタジオA	118名 116名 117名 119名
12月3日	神戸女学院大学音楽学部 定期演奏会 '13	兵庫県立芸術文化センター KOBELCO(コベルコ)大ホール	805名
2014年 2月24～26日	2013年度卒業生 卒業演奏会	神戸女学院講堂	462名
3月6日 3月7日	神戸女学院大学音楽学部音楽学科 舞踊専攻 第8回公演	兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール	509名 532名
【のべ入場者数 4,054名】			

音楽学部主催 子どものためのコンサート・シリーズ			
7月6日	第36回 子どものための七夕コンサート ～わたしらしっく くらしっく♪～		665名
11月23日	第37回 子どものためのオルガン・コンサート ～おはなしオルガン「ロバの王子」～		325名
12月14日	第38回 子どものためのクリスマス・コンサート ～聴いて歌って動いて感じよう♪～		600名
【のべ入場者数 1,590名】			

音楽学部主催 子どものための音楽作りワークショップ			
11月16日	第4回 音で遊ぼう! 子どものための音楽作りワークショップ		
【音楽学部生27名、学外者10名、近隣の子どもたち18名】			

人間科学部 心理相談室主催				
	日程	担当教員	講義テーマ	参加者
心相ウィーク講演会	7月31日	鶴田英也	「きずな」を考える～おへそのイメージについての臨床心理学的アプローチを通じて～」	40名
“親をまなぶ”連続講座〈全5回〉	10月17日	國吉知子	「親子関係をよむ視点」	のべ130名
	10月24日	國吉知子	【公開講座】「就学前の子どもへの対応（1）～ママがセラピスト！：PCIT(親子相互交流療法)とは～」	
	10月31日	國吉知子	「就学前の子どもへの対応（2）～PCITのスキルを学ぶ～」	
	11月7日	須藤春佳	【公開講座】「小学生の子どものごころ～親の見守りと子ども同士の関係～」	
	11月14日	國吉知子	「親の不安に共振する子ども～まとめとディスカッション～」	
シンポジウム	2月23日	國吉知子	「つなぐ、結ぶ、親の心と子の心」濱名 浩氏（立花・武庫愛の園幼稚園園長、兵庫県私立幼稚園協会理事長）松本 聡子氏（本学カウンセリングルーム非常勤カウンセラー、家族支援研究会、臨床心理士）	43名

人間科学部主催・開催				
	日程	担当教員	講義テーマ	参加者
地域創りリーダー養成プログラムイベント	7月31日	遠藤知二 三宅志穂	ワクワク水の実験教室 - 君の行動力が西宮の未来を変える -	15名
	10月19日	張野宏也 鶴田英也	こんなスポットあったんだ！！ - 西宮市素敵発見旅 -	13名
	10月27日	張野宏也 三宅志穂	西宮トレジャー！ - 知って食べよう地産地消 - ①	19名
	11月17日	矢野円郁 鶴田英也	西宮トレジャー！ - 知って食べよう地産地消 - ②	15名
	11月30日	張野宏也 矢野円郁	それゆけ！もんど探検隊！ - 門戸厄神東光寺・神戸女学院大学の歴史と自然を楽しく学ぼう♪ -	4名
子どもサイエンス体験教室	3月21日	横田弘文	水の中の生き物 ミジンコを観察してみよう	31名
自然にふれあう体験型環境学習西宮市立甲東小学校3年生	5月8日	野寄玲児	「自然観察－調べよう甲東の自然－」	163名
	7月10日			163名
	10月24日			163名
	12月12日			163名
	2月26日			163名
自然にふれあう体験型環境学習西宮市立甲東小学校1年生	11月1日	野寄玲児	生活科「あきみつけ」ドングリ拾い	175名
尼崎フォレストの会	12月10日		種子採集および自然観察会	10名
武庫川市民学会主催	11月30日	横田弘文	武庫川水系に生息する野生メダカの遺伝子型の解析	約50名
シニア自然大学	6月5日	遠藤知二	昆虫の生態と分類	約15名
	6月8日		昆虫観察	約20名
神戸大学人間発達環境学研究科	1月23日	三宅志穂	研究道場特別講義「科学を伝えるメディアの探求～博物館／動物園／科学絵本をどう活かすか～」	6名
ユープこうべ	6月9日	遠藤知二	社家郷山の昆虫を観察しよう！！	16名
	7月14日		甲山農地の生き物を見つけてみよう！！	37名
	10月5日		親子で「社家郷山の生き物探し」	12名

6 その他の事業

	学 院	大 学
4月	新任教職員就任式	入学式、入寮式 IP-TOEIC 全1年生対象テスト 新入生歓迎会・オリエンテーション、登録ガイダンス 新入生対象ITオリエンテーション・キャンパスツアー フレッシュマンキャンプ(六甲セミナーハウス、ウェスティンホテル 淡路、南淡路ロイヤルホテル)
5月	創立者記念日墓前礼拝 愛校バザー	春季教授会研修会 米国ワイオミング大学学生交流プログラム(本学)
6月	デフォレスト先生召天40周年 記念行事 神戸女学院初夏の公開講座 専任職員SD研修会	家庭会大学部会総会・保護者懇談会(本学) 米国ロックフォード大学学生交流プログラム(本学) 保護者懇談会(岡山) 前期学生による授業評価アンケートの実施 オープンキャンパス
7月	学院リトリート	フィリピン、アサンプション大学研修プログラム(本学) 保護者懇談会(名古屋) 音楽学部夏期講習会(本学) 米国ポーリンググリーン大学学生交流プログラム(本学)
8月		教員免許状更新講習(英語)(本学英文学科) 夏のオープンキャンパス 夏期語学研修(西オーストラリア大学、ニューカッスル大学、カナ ダヨーク大学、米国カリフォルニア大学アーバイン校)
9月	中高部ヴァージニア・クレークン記念館 起工式	大学職員SD研修会 I オープンキャンパス ESD推進プログラム修了式
10月	岡田山キャンパス移転 80周年記念シンポジウム	秋季教授会研修会 大学祭 保護者懇談会(本学・第2学年対象) インド、聖ジョセフ・カレッジ・オブ・コマース学生交流プログラム(本 学)
11月	神戸女学院秋季公開講座 宗教強調週間	宗教強調週間 オープンキャンパス オーストラリア、モーツアルテウム大学学生交流プログラム(本学) フィリピン、ミリアム大学学生交流プログラム(本学) 後期学生による授業評価アンケートの実施・授業公開 IP-TOEIC 全学部1年生対象テスト
12月	クリスマス礼拝	音楽学科舞踊専攻卒業公演 クリスマスオープンキャンパス
1月		
2月		IP-TOEIC 全学部2年生・通訳プログラム受講生・英文学科3年生 対象テスト 卒業研究発表会、卒業演奏会 春期語学研修(梨花女子大学、クイーンズランド大学、英国ヨーク 大学)
3月		ハラスメント防止のための教授会研修会 学位記授与式 大学職員SD研修会 II 春のオープンキャンパス

	中高部	中高部 生徒の活動
4月	J1オリエンテーション J1デイキャンプ(1)(2) 中学部入学式、高等学部入学式 宗教部主催修養会(大阪水上隣保館訪問) PTA総会 春の遠足 春の子ども会(S自治会・関学共催)	第67回会長杯争奪卓球選手権大会(西宮市カデット卓球大会)3年生1部:第3位(J3生)、2年生2部:準優勝(J2生) 第29回成田山全国競書大会:成田山賞(S3生)、読売賞(S3生)
5月	聖書を学ぶ会(6,10,1,2月の計5回) PTA岡田山散策会 教育実習	第66回西宮市民体育大会兼西宮・芦屋地区バドミントン大会:第2位(女子団体Aチーム・J3生5名、J2生)、ダブルス:ベスト8(J3生2名、第3位:交流戦女子団体Bチーム(J3生5名、J2生)) 第11回西宮市教育長杯争奪カデット卓球選手権大会中学2年生女子3部:優勝(J2生) 第58回兵庫県高等学校春季テニス大会団体戦:第5位(S3生6名) 少年吟詠コンクール少年の部:準々優勝(J3生) 第35回少年部吟詠大会少年の部:準々優勝(J3生)
6月	体育祭 人権学習会 PTA文化講演会 宗教部・自治会共催修養会(釜ヶ崎訪問)	第18回ディベート甲子園近畿・北陸地区予選:6位入賞(S2生4名) 兵庫県私立中学高等学校連合会英語教育研究会主催兵庫県私立中学第9回英語レシテーション・コンテスト:第1位(J3生) 兵庫県私立中学高等学校連合会英語教育研究会主催兵庫県私立高校第9回英語スピーチ・コンテスト:第3位(S3生) 第33回西宮市中学校総合体育大会卓球大会団体戦2部:優勝(J3生、J2生5名)、下級生の部第3位(J2生6名) 第33回西宮市中学校総合体育大会バドミントン競技:第2位(女子団体Aチーム・J3生5名、J2生1名)、女子ダブルス:第3位(J3生2名)
7月	JS校内大会 リーダーシップ・トレーニングキャンプ 宗教部主催修養会(長島愛生園・邑久光明園訪問) 訪米語学研修旅行	第33回西宮市中学校総合体育大会バドミントン競技:第2位(女子団体Aチーム・J3生5名、J2生1名)、女子ダブルス:第3位(J3生2名) 第77回兵庫県中学校総合体育大会テニス競技団体の部:第3位(J3生9名、J2生) 第35回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会:D級4位(S2生)
8月	夏山登山 宗教部主催修養会(広島訪問)	ダンロップ全日本ジュニアテニス選手権'13シングルス:ベスト32(S3生) 第18回全国ディベート選手権高校の部:ベスト8(S2生4名) 2013阪神ESSユニオンシナリオリーディングコンテスト:第1位(S2生4名、S1生2名) 第18回全国高校大学生書道展:書道展賞(S3生2名)、優秀賞(S3生2名、S2生、S1生) 第80回NHK全国学校音楽コンクール兵庫県大会:兵庫県教育委員会賞:(J3生12名、J2生9名、J1生8名) 2013年度兵庫県合唱コンクール高等学校の部:銅賞(S2生3名、S1生5名) 平成25年度全国吟詠コンクール近畿地区大会少年の部:入賞(J3生)第26回大阪地区学生いけばな競技会個人の部:佳作(S2生2名、S1生3名)
9月	教職員研修会 文化祭	第2回 EF Grand Prix 英語コンテスト:第3位(S2生) 高体連バレーボール阪神地区秋季リーグ戦7部:優勝(S2生3名、S1生3名) パンフィック杯第2回中学生英語暗唱コンテスト:優勝(J3生) 第5回 IIBC TOEIC エッセイコンテスト:最優秀賞(S2生)
10月	中学部入試説明会 S2修学旅行、J3小旅行 S1一泊研修 J1、J2、S3遠足	数学・理科甲子園ジュニア2013兵庫県予選:準優勝(J2生3名) 大阪国際大学主催第1回全国高校生英語スピーチコンテスト:VVV-Venlo賞(S2生) 第60回高等学校英語弁論大会:優勝(S2生)
11月	芸術鑑賞会 防災訓練 宗教強調週間 PTA宗教講話 キャンパス見学会 秋の子ども会 人権学習会	第21回薫英杯中学生女子英語スピーチコンテスト:薫英努力賞(J3生)第1回百合学院杯中学生小学生英語暗唱大会:第4位(J3生) 第37回兵庫県高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門:C級第2位(S2生) 第30回茨木市国際親善都市協会英語スピーチコンテスト:審査員特別賞(S2生) 日本倫理・哲学グランプリ:銅賞(S1生) 広島女学院大学ゲーンズ杯高校生英語スピーチ・コンテスト2013:第2位(S2生) 聖学院大学第9回高校生英語スピーチコンテスト:奨励賞(S2生) STUI杯高校生英語スピーチコンテスト:敢闘賞(S1生) 第16回兵庫県高校生英文エッセイコンテスト県大会:優秀賞(S1生) 税の書道展:西宮・宝塚租税教育推進協議会賞(J3生)、西宮納税貯蓄組合連合会賞(J3生) 第43回私学の書展:特選大阪教材社賞(J3生)
12月	PTAクリスマス礼拝 クリスマス礼拝 宗教部・自治会共催修養会(釜ヶ崎訪問) 冬山スキー	中学生の税の作文:西宮・宝塚租税教育推進協議会賞(J3生) 第8回全国高校生ディベート大会 in 長野:優勝(S2生4名、S1生)、最優秀ディベーター(S2生) 第1回科学の甲子園ジュニア全国大会:総合成績第2位(J2生3名)第8回東京大学ESS杯争奪英語弁論大会:第3位(S2生) 第12回鳳凰杯中学生英語スピーチコンテスト:第2位(J3生)、優秀作品賞(J3生2名)
1月	文化スポーツ賞・部長賞表彰式 中学部入試	2013年度西宮市中学校バレーボール男女選抜大会:第5位(J2生10名、J1生5名) 豊中・サンマテオ姉妹都市協会主催第42回高校生英語弁論大会:豊中市長賞(S1生) 神戸日米協会主催第21回高校生英語暗誦大会:第2位(S1生)
2月	人権学習会	第58回阪神ESSユニオンスピーチコンテスト:第1位(S1生)、第2位(S1生) 平成25年度西宮市民テニス大会中学生の部シングルス:第1位(J2生) 第1回芦屋ウインターカップ:準優勝(J2生10名、J1生5名) 第24回日本数学オリンピック:成績優秀(S2生・ヨーロッパ女子数学オリンピックの日本代表) 第12回日本ジュニア数学オリンピック:成績優秀(J2生2名) 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト:国際協力特別賞(J1生) 第30回全国年賀はがきコンクール:学年優勝杯(J2生)
3月	高等学部卒業式 PTA常任幹事会 讚美歌コンクール 中学部卒業式	International Worlds Schools Debate Tournament Ljutomer, Slovenia(S2生3名) 第1回クラーク杯近畿中学生英語スピーチコンテスト:第1位(J2生)、Memorable Performance賞(J2生)

Jは中学部、Sは高等学部、数字は学年を示す

7 施設・設備

中高部1号館空調熱源改修工事

----- 21 百万円

中高部1号館の冷暖房の熱源は、1994年に設置され20年経過しており、機器の劣化に依る故障や機器効率の低下がありました。また、中高部2号館の新築工事に伴い熱源機器の移設もあり、3基の熱源機器全てを更新しました。更新により室内環境の確保及びランニングコストの削減が期待されます。



タルカット記念館バリアフリー化整備工事

----- 33 百万円

タルカット記念館は地上3階、地下1階の建物であり、負傷した生徒や外来者の移動に支障をきたしていたため、建物内にエレベーターを設置しました。また、新たに地下1階に多目的トイレ、階段には手摺を設置しました。設置後は、身障者や負傷した生徒の負担軽減と共に、什器等の運搬の際にも作業効率の向上が図られます。本事業は文部科学省補助金（私立高等学校等施設高機能化整備）の対象事業です。



中高部1T教室全面リプレース

----- 41 百万円

2007年度にアンジー・クルー館IT教室として、サーバシステム、コンピュータ2教室の更新整備を行いました。導入後6年が経過した現在、更新機器のメーカーサポート終了や目まぐるしいITシステム環境の機能進歩もあることから、全面リプレースを行いました。新システムでは、サーバの仮想化による効率化を図ると共に、教育的必要に応じたサービスの提供ができる環境構成の実現、2教室をシンクライアント型のコンピュータ室とすることで、サーバに授業で利用する全パソコンのイメージが設定でき、教員の要望に応じた柔軟な対応ができる構成となり、生徒への教育的利便性の向上が大きく期待されます。本事業は文部科学省補助金（私立高等学校等IT教育設備整備推進事業）の対象事業です。



講堂、ソールチャペル空調設備改修工事

----- 39 百万円

既設の床置き暖房用蒸気放熱器は78年間使用していたため、本体の蒸気漏れや床下内の配管の破損



が多岐に見られました。また、放熱器等を修理する際に部品調達が出来ない事や修理をおこなう技術者が不足している事もあり、本建物の空調システムを改修しました。改修にあたっては、冷暖房機を一体化した機器を選定し、利便性等を考慮し、個別運転が可能となりました。

デフォレスト記念館1階、2階改修工事

----- 21百万円

デフォレスト記念館竣工時(1976年)に設置された空調室内機は、37年を経過しており、経年劣化による機内の腐食が多岐に見られるため、1階・2階の空調室内機(65台)を更新しました。また、室内機の更新の際に、2階の大教室の固定机・椅子及び床材も合わせて更新しました。



文学館エレベーター設置及び1階便所改修工事

----- 33百万円

以前より本施設にエレベーター設置の要望がありましたが、適切な設置場所が見当たらず、多方面から検討を重ねてきた結果、1階を洗面室、2階を廊下に入出口を設けた2方向エレベーターを採用し



ました。また、エレベーター設置と共に、1階に多目的トイレの新設、隣接する既設便所の全面改修も行いました。なお、本工事にあたっては、創建当初の意匠や材料を踏襲した改修を行いました。本事業は文部科学省補助金(私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費)対象事業です。

MediaSiteLive 6の導入

----- 12百万円

大学の教学における中・長期計画の三本柱、「英語教育の強化」、「リベラルアーツ教育の充実」、「学修支援体制の拡充」達成の基礎となる、ICTを活用した授業を実現する機器として、映像収録・配信システム MediaSiteLive 6を導入しました。授業内でのプレゼンテーション、各種説明会、式典の模様などの収録・配信が容易になり、収録した映像をコンテンツとして広く活用できる環境が整いました。本事業は文部科学省補助金(私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費)対象事業です。



8 入試に関する状況

● 神戸女学院大学

[2014年度入試概況]

今年度の入試は全国的に昨年からの傾向が更に顕著に表れました。学費負担が軽い国公立志向、資格取得を前提とした実学志向、理系志願者が増加、文系志願者が減少という結果となりました。特に新增設が続く看護系、医歯薬系の志願者は大幅に伸びています。

本学においては、成績上位の受験生を獲得すべく入試制度を一部変更し、大学入試センター試験を利用する入学試験【後期日程】を新たに設定いたしました。

この状況の中、今年度の志願者は昨年度比 105%とやや増加いたしました。

前年度同様入試制度ごとに慎重に合否判定を行い、必要想定入学者数を確保することができました。

次年度は3科目入試、社会科目の導入、公募制推薦の学内併願追加等本学としては大幅な入試制度の変更を計画しています。今年度以上に積極的に学生募集を行い、より安定的な入学者の確保を目指します。

オープンキャンパス 来場者数

開催日	名称	人数
6月22日	オープンキャンパス	323
8月3日	夏のオープンキャンパス	831
8月4日	夏のオープンキャンパス	879
9月16日	オープンキャンパス	469
11月23日	オープンキャンパス	301
12月13日	オープンキャンパス	128
3月21日	オープンキャンパス	416
総計		3,347

学外進学相談会

地区	対面	資料	計
北海道	0	1	1
宮城	0	1	1
静岡	3	0	3
愛知	2	2	4
京都	2	2	4
大阪	15	3	18
兵庫	7	2	9
奈良	1	0	1
和歌山	1	0	1
岡山	2	1	3
広島	2	0	2
鳥取	1	0	1
徳島	1	0	1
香川	2	1	3
愛媛	1	0	1
高知	1	0	1
福岡	2	1	3
総計	43	14	57

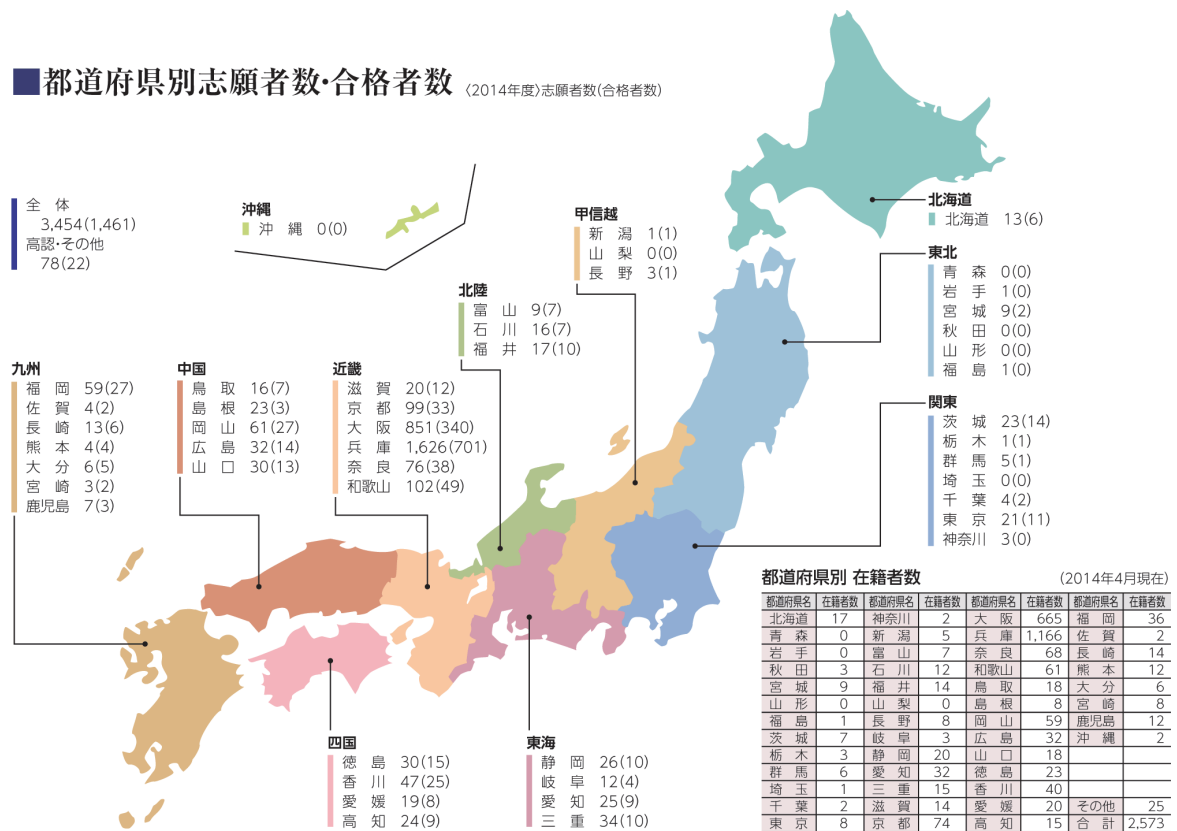
対面・・・各会場に本学ブースを設置し、スタッフによる相談を実施

資料・・・会場において本学資料を配布

入試制度別状況

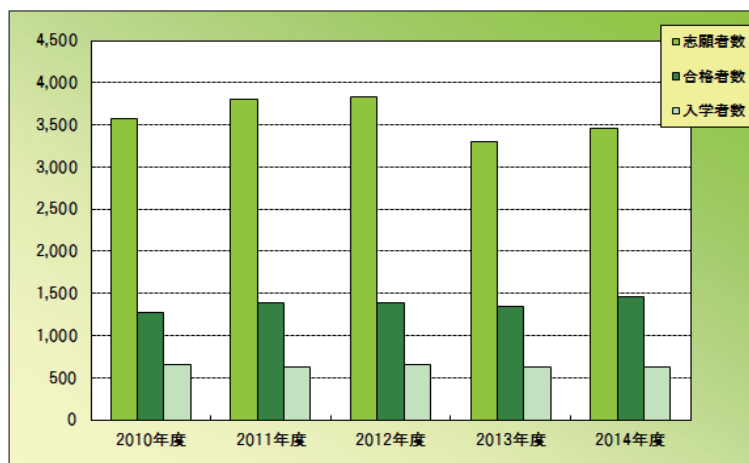
		志願者数	受験者数	合格者数	実質競争率	
一般入学試験	前期A日程	677	671	258	2.6	
	前期B日程	672	659	236	2.8	
	前期C日程	447	290	134	2.2	
	前期D日程	センター1科目型	240	149	76	2.0
		センター2科目型	125	75	37	2.0
大学入試センター試験を利用する入学試験	前期日程	2科目型	204	204	133	1.5
		3科目型	114	114	63	1.8
		4科目型	42	42	22	1.9
	後期日程	2科目型	76	76	44	1.7
		3科目型	38	38	15	2.5
		4科目型	12	12	4	3.0
一般入学試験 後期日程	215	204	67	3.0		
公募制推薦入学試験	356	355	148	2.4		
AO入学試験	22	22	17	1.3		
帰国子女入学試験	5	3	3	1.0		
社会人入学試験	0	-	-	-		
外国人留学生入学試験	0	-	-	-		
編入学試験	0	-	-	-		

都道府県別志願者数・合格者数 (2014年度)志願者数(合格者数)



	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
志願者数	3,573	3,816	3,825	3,297	3,454
合格者数	1,278	1,405	1,388	1,342	1,461
入学者数	651	629	655	623	630

2012年度 編入学試験で音楽学部1名入学



● 神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
志願者数	55	46	48	40	48
合格者数	35	34	25	25	34
入学者数	32	32	23	23	20

博士後期課程

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
志願者数	2	1	4	3	4
合格者数	2	0	3	2	4
入学者数	2	0	3	2	4

● 神戸女学院中高部

中学部

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
志願者数	257	260	277	257	214
合格者数	157	150	153	153	153
入学者数	144	136	142	141	141
転入学者数	—	—	—	—	1

高等学部

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
編入学者数	—	—	—	—	1

高等学部 全日制課程 普通科 募集なし

9 留学に関する状況

● 神戸女学院大学・大学院

〔2013年度留学概況〕

本学の教育理念の一つである「国際理解の精神」の涵養を目指し、2013年度は、主に留学協定校の増加と同時に、キャンパスでできる国際交流として、協定校からの受入と学内制度の充実に取り組んでまいりました。

◆留学協定校の増加◆

2013年度には新たな協定先として、ポーリンググリーン大学（アメリカ）及びアサンプション大学（フィリピン）と交換留学協定を締結しました。また、西日本の大学として初となるJSAF（日本スタディ・アブロード・ファンデーション）とのフルパートナーシップ、本学初となるニュージーランドのワイカト大学並びにディーキン大学（オーストラリア）と大学間・学部間協定を結びました。これにより、これまで英国の7大学であった認定留学協定先が、70大学へと大幅に広がることとなりました。

協定大学からの受入では、協定締結後初となるチャタム大学（アメリカ）、ロックフォード大学（アメリカ）、徳成女子大学（韓国）と広東外語外貿大学（中国）からの留学生が本学にまいりました。

また、短期研修生受入では、5月にワイオミング大学（アメリカ）、6月にロックフォード大学（アメリカ）に加え、7月に新規協定先となったポーリンググリーン大学（アメリカ）と11月には、ミリアム大学（フィリピン）からのグループをキャンパスに迎え、交流会、特別講義、学外活動等の各プログラムを実施いたしました。

また、海外からの短期研修生受入の際の新たな学内制度として、キャンパスや学外で学生たちがボランティアガイドとして案内するKC Guideの登録をスタートさせたほか、留学や海外研修から帰国した学生が、各種イベントの際に、各々の経験談を語る留学アドバイザー制度を発足させました。

◆キャンパスでできる国際交流◆

夏期休暇中においてオックスフォード大学・ケンブリッジ大学（英国）の学生を講師に招いての英語合宿に加え、9月には、中国語の集中研修を新たに企画、実施いたしました。

また、従来からの留学生をサポートしながら交流

を深める留学生パディ、ホストファミリー登録の両制度の認知度を深め、参加する学生数を伸ばすとともに、学生たちと外国人留学生との交流会（歓送迎会や留学生パディ主催の七夕、クリスマスパーティ）を開催しました。海外からの交換留学生に対しては、英語で日本文化を学ぶ“Introduction to Japanese Culture”と日本の現代事情を学ぶ“Current Issues in Japan”、留学生が希望する先生・科目・言語を自由に選択し、マンツーマンで授業が受けられる“Tutorial for Exchange Student”を本年度も継続して開講しました。

◆学内制度の充実◆

キャンパス内における語学教育面でのサポートとしては、留学準備を目的とした学内でのTOEFLテストの実施（年間5回）、留学説明会や国際交流フェア、K-CLIPの留学生ブログ並びにメーリングリスト等により、海外派遣プログラムへの関心を喚起し、定期的に情報を配信しています。TOEFLテストについては、高得点者（500点以上）に対して無料受検の特典を付与し、留学への候補者を増やす試みも始めました。

今後も国際交流センターでは、より充実した国際交流プログラムを提供し、学生達が「国際理解の精神」を体得できるよう国際交流事業を推進してまいります。

本学から海外へ

派遣留学	大学名	国名	人数	期間
	ワイオミング大学	アメリカ	2	1年
	広東外語外貿大学	中国	2	1年
	梨花女子大学	韓国	1	1年
	徳成女子大学	韓国	1	5ヶ月
	ミリアム大学	フィリピン	2	5ヶ月
	国別集計	アメリカ	2	
	中国	2		
	韓国	2		
	フィリピン	2		
	計	8		

認定留学	大学名	国名	人数	期間
	ニューカッスル大学	イギリス	1	1年
	計		1	

中期英語留学	大学名	国名	人数	期間
	チャタム大学	アメリカ	8	7ヶ月
	計		8	

中期海外研修	大学名	国名	人数	期間
	カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	10	7ヶ月
	クイーンズランド大学	オーストラリア	3	7ヶ月
	計		13	

語学研修	大学名	国名	人数
	夏期：ヨーク大学	カナダ	13
	夏期：西オーストラリア大学	オーストラリア	15
	夏期：ニューカッスル大学	イギリス	15
	夏期：カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	6
	春期：クイーンズランド大学	オーストラリア	14
	春期：ヨーク大学	イギリス	16
	春期：梨花女子大学	韓国	9
	国別集計	カナダ	13
		オーストラリア	29
		イギリス	31
	アメリカ	6	
	韓国	9	
計		88	

本学から海外へ	総計	118
---------	----	-----

海外から本学へ

プログラム	大学名	国名	人数	期間	備考
交換留学	チャタム大学	アメリカ	1	半年	心理・行動科学科1名
	ロックフォード大学	アメリカ	1	1年	総合文化学科1名
	徳成女子大学	韓国	3	半年	総合文化学科3名 (前期1名・後期2名)
	広東外語外貿大学	中国	1	1年	文学研究科1名
科学技術 振興調整 費による受 入	華南師範大学	中国	1	1年	人間科学研究科 「地域からESDを推進する女性 環境リーダー育成プログラム」 による受入
	アテネオ・デ・マニラ大学	フィリピン	2	1年	
	ダナン工科大学	ベトナム	1	1年	
	サムラランギ大学	インドネシア	1	1年	
長期受入	国別集計	アメリカ	2		
		中国	2		
		韓国	3		
		フィリピン	2		
		ベトナム	1		
		インドネシア	1		
	計		11		

	大学名	国名	人数	期間	備考
JLCP	ミリアム大学	フィリピン	6	14日	
SJCC	セントジョセフ・カレッジ・オブ・コマース	インド	4	9日	
HONOR	ワイオミング大学	アメリカ	9	17日	
	ロックフォード大学	アメリカ	8	10日	
	ポーリンググリーン大学	アメリカ	14	2日	
JENESYS	アサンプションカレッジ	フィリピン	6	9日	
	モーツアルテウム大学	オーストリア	1	7日	
ESD ワーク ショップ： 地域に根ざ した学生の 活動	梨花女子大学	韓国	6	3日	
短期受入	計		54		

海外から本学へ	総計	65	
---------	----	----	--

● 神戸女学院高等学部

本学から海外へ

	学校名	国名	人数	期間
公認留学	Southern Lehigh High School	アメリカ	2	1年
	Nation Ford High School			1年
	Methodist Ladies' College	オーストラリア	1	1年
		計		3

海外から本学へ

国名	人数	期間
オーストラリア	1	3ヶ月
スイス	1	1年
計	2	

10 卒業、修了、満期退学、博士学位授与の状況

● 神戸女学院大学

	文学部		音楽学部	人間科学部				計
	英文学科	総合文化 学科	音楽学科	人間科学科		心理・行動 科学科	環境・バイオ サイエンス学科	
				人間行動 科学専攻	人間環境 科学専攻			
2009年	147	218	55	2	—	109	83	614
2010年	162	220	51	1	—	98	95	627
2011年	177	225	49	—	—	91	81	623
2012年	186	227	50	—	—	98	91	652
2013年	165	226	55	—	—	98	83	627

2008年度（人間科学部）からは学科改編後の卒業生数
2010年度以降については前期末（当該年度9月）卒業を含む

● 神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	文学研究科			音楽研究科	人間科学研究科	計
	英文学専攻	社会学専攻	比較文化学 専攻	音楽芸術表現 専攻	人間科学専攻	
2009年	2	—	4	7	12	25
2010年	6	1	1	4	12	24
2011年	12	1	1	7	8	29
2012年	12	3	2	7	10	34
2013年	7		1	7	7	22

2010年度以降については前期末（当該年度9月）卒業を含む

博士後期課程

博士後期満期退学

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学 専攻	比較文化 学専攻	人間科学 専攻	
2009年	1	4	—	5
2010年	2	2	—	4
2011年	1	3	—	4
2012年	—	—	1	1
2013年	—	—	—	—
博士後期課程設置当初からの累計				

博士学位授与

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学 専攻	比較文化 学専攻	人間科学 専攻	
2009年	—	—	1	1
2010年	1	—	1	2
2011年	—	—	2	2
2012年	—	1	—	1
2013年	—	1	—	1
博士後期課程設置当初からの累計				

● 神戸女学院中高部

	中学部
2009年	142
2010年	149
2011年	143
2012年	142
2013年	134

	高等学部
2009年	138
2010年	147
2011年	149
2012年	139
2013年	144

11 就職・進学状況等

● 神戸女学院大学

〔2013年度就職概況〕

文部科学省の発表によると、リーマンショック後落ち込んだ内定率も徐々に回復傾向にあり、2014年3月卒は2月1日現在82.9%と、前年比1.2ポイント改善しています。業界にはよるものの、景気の緩やかな回復で企業の採用意欲も高まりを見せており、質重視の厳選採用は変わりませんが、2014年3月卒を取り巻く就職環境は改善されつつあったと思います。

本学の2014年3月卒については、3年次からのキャリアセンターのサポートプログラムも、学生が苦手としている業界研究・企業研究に力を入れる、大教室のセミナーでも少人数のグループワークを増やすなど、本学学生に特に必要なことに注力して取り組んできました。12月スタート、4月選考開始のスケジュール変更も2年目となり、就職ナビが繋がらなくなるという1年目のような大きな混乱もなく、学生たちはそれぞれの活動に入りました。ただ、各企業の採用選考は年々前倒しでスタートしており、4年次4月に内々定が出始めると、学生の二極化（内定を複数得る学生となかなか得られない学生）が目立つようになりました。それに対し、例年7月に実施していた進路状況調査を5月に早めて行うことで、学生の状況把握に努めるとともに、個別面談、エントリーシート対策、面接対策、リカバリー講座の実施など、4年生の個別サポート自体を強化してきました。

最終的に本学2014年3月卒の就職率は、昨年には少し及ばず95.2%でした。今年の進路状況の特徴としては、大学院への進学者が45名と、ここ10年間で最も多かったことが挙げられます。就職決定先の業界は、金融・保険の24.7%を筆頭に、卸売・小売、製造、サービス、医療・福祉、運輸と続いています。金融・保険業界への就職者数は、全体の割合が減少傾向にありましたが、今年はメガバンクの採用増の影響もあり、就職者は100名を超えています。航空ではANAの客室乗務員に11名の内定者（就職決定者は9名）があり、ANAの採用担当の方から本学の合格率は非常に高かったとの言葉をいただきました。また、人気の大手スポーツメーカーや、神戸発祥のベビー服メーカーに徐々に総合職各1名の内定を得たこと、一般職ではこちらも久しぶりですが、日本銀行に内定があったことな

どもうれしいニュースと言えます。

決定先企業の規模別では、従業員1,000人以上の大企業に就職する割合が42.2%と、例年を上回っています。

本学就職支援のコアプログラムと位置づけている「KCキャリア塾」も、この春、第1期生を送り出しましたが、塾生18名のうち1名が専門学校進学を選んだほか、17名は各々が望む進路への就職を決定しました。

また、就職活動を終えた4年生が3年生をサポートする「キャリアサポーター」の制度は2013年度で3年目となり、4年生から3年生へとその意思が脈々と受け継がれています。特に今年の4年生サポーターたちは、KCキャリアカフェ、グループディスカッション講座のほか、金融志望者座談会、自己分析&面接対策講座、模擬面接講座などを自ら企画・運営し、卒業の直前まで後輩の支援に力を注いでくれました。

2013年9月に日本経済団体連合会が「採用選考に関する指針」を発表し、現2年生の2016年3月卒から、企業の広報活動開始が現在より3か月、採用選考開始が4か月後ろ倒しになります。就職活動に入る時期が遅くなることで、学生達の準備も遅くなりがちですが、企業の採用選考がますます短期決戦になるため、就職活動についてはこれまで以上に準備期間の過ごし方が重要になります。2014年度、就職活動に入る3年生について、キャリアセンターのサポートプログラムは例年と大きな変更なく実施しますが、このスケジュール変更を見据え、本学のキャリア教育科目も内容を再編して開講することになりました。低年次から「生き方」「働き方」「大学での過ごし方」をしっかりと見つめることが将来を考える大きな足がかりになり、納得のいく進路選択に繋がります。

2014年度も引き続き1人でも多くの学生が希望する進路を実現できるよう、大学を挙げてサポートしていきます。

● 3年生対象キャリア支援プログラム実施状況

就職ガイダンス・セミナー		
4	19 (金) インターンシップガイダンス①	
	26 (金) 就職ガイダンス①	
5	10 (金) 履歴書の書き方セミナー	
	17 (金) セミナー：社会人の考え方	
	24 (金) セミナー：女性とキャリア	
	31 (金) 仕事研究セミナー：総合職と一般職	
6	7 (金) 就職試験対策セミナー	
	14 (金) インターンシップガイダンス②	
	21 (金) 仕事研究セミナー：人と接する仕事	
	28 (金) 仕事研究セミナー：人を支える仕事	
	29 (土) SPI 模擬試験①	
	平日 昼休み	就職活動体験報告会①
7	5 (金) 自己分析講座：セミナー編	
	12 (金) 自己分析講座：実践編①	
	19 (金) 自己分析講座：実践編②	
	26 (金) 就職ガイダンス②	
8	6 (火) ～8(木)	就職文章力アップ講座【有料】
	9 (金)	就活夏期集中対策講座①
	23 (金)	就活夏期集中対策講座②
	28 (水) ～ 30 (金)	自己分析&コミュニケーション講座
9	6 (金)	就活夏期集中対策講座③
	17 (火) ～ 20 (金)	SPI 集中対策講座【有料】
	27 (金)	就職ガイダンス③
	10	4 (金)
18 (金)		業界研究講座
19 (土)		SPI 模擬試験②（一般常識含む） 【有料】
21 (月)		GD 対策講座 事前編①
28 (月)		GD 対策講座 事前編②
平日 昼休み		就職活動体験報告会②
11	1 (金)	兵庫県の中小企業セミナー
	同上	企業研究講座
	2 (土)	GD 対策講座 実践編
	5 (火) ～8(金)	学内証明写真撮影会
	7 (木)	業界研究セミナー：アパレル
	8 (金)	中小企業研究講座
	11 (月)	業界研究セミナー：マスコミ
	12 (火)	業界研究セミナー：商社
	14 (木)	業界研究セミナー：メーカー①
	15 (金)	中小企業の探し方講座
	18 (月)	業界研究セミナー：プライダール
	22 (金)	4年生キャリアサポーターによるセミナー
	26 (火)	業界研究セミナー：メーカー②
	28 (木)	業界研究セミナー：旅行
	29 (金)	就職ガイダンス④
	29 (金)	特別セミナー：採用担当からのアドバ イス
	30 (土)	SPI 数理解対策講座【有料】

12	2 (月)	業界研究セミナー：損害保険①	
	3 (火)	業界研究セミナー：損害保険②	
	5 (木)	業界研究セミナー：銀行	
	6 (金)	エントリーシート対策講座①	
	7 (土)	SPI 模擬試験③（一般常識含む） 【有料】	
	12 (木)	業界研究セミナー：人材サービス	
	13 (金)	グループディスカッション対策講座①	
	14 (土)	グループディスカッション対策講座②	
	17 (火)	業界研究セミナー：信用金庫	
	20 (金)	Uターンセミナー	
	20 (金)	卒業生在籍企業紹介セミナー	
	21 (土)	エントリーシート実践対策講座【有料】	
1	10 (金)	エントリーシート対策講座②	
	21 (火)	業界研究セミナー：商社	
	23 (木)	業界研究セミナー：医療福祉	
	24 (金)	就職ガイダンス⑤	
	20 (月) ～ 24 (金)	模擬面接講座【有料】	
25 (土)	学内合同企業セミナー①		
2	1 (土)	学内合同企業セミナー②	
	1 (土) 4 (火) ～8(土) 13 (木) ～ 15 (土)	学内企業セミナー	
	19 (水) 20 (木)	グループディスカッション実践講座	
	26 (水) 27 (木)	面接対策実践講座	
	3	26 (水) 28 (金)	面接対策実践講座

その他3年生対象	
9月9日(月) ～13日(金)	企業研究ワークショップ
10月～1月 全10回	KC キャリア塾
10月～11月 全10回	KC エアラインスクール
10月～11月	自己PR 全員面談
12月 全3回	金融特別セミナー

●他学年対象キャリア支援プログラム実施状況

4年生対象		
4	12(金)、15(月)	面接力向上セミナー①②
	30(火)	面接力向上セミナー③
5	1(水)、2(木)	グループディスカッション・トレーニング①②
	13(月)、27(月)	面接力向上セミナー④
	14(火)、21(火)	エントリーシート対策講座①②
	28(火)	エントリーシート対策講座③
6	8(土)	学内企業説明会
	11(木)	就活リカバリー講座

2年生対象		
7	5(金)	進路ガイダンス①
1	10(金)	進路ガイダンス②

1年生対象		
6	7(金)	キャリアガイダンス①
12	6(金)	キャリアガイダンス②
	17(火)	環境・バイオサイエンス学科対象 キャリアガイダンス

学年不問		
7	26(金)	公務員ガイダンス
9	25(火)	エアラインセミナー
11	16(土)	学内OG訪問会

その他		
<ul style="list-style-type: none"> ・秘書技能検定講座 2級、準1級 春期・夏期2回実施 ・TOEIC 対策講座 春期・夏期集中講座 ・公務員受験対策講座 春期・夏期集中講座 ・キャリアカウンセラーによる個別面談 (通年 夏期休暇中を除く) 		

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
卒業生数	614	625	613	642	612
希望者数	504	486	494	509	475
決定者数	446	440	442	492	452
進学者数	36	30	29	27	45

前期末卒業を含まない

主な就職先（2013年度）

企業名等	企業名等	企業名等
建設業	上組	三井住友海上火災保険
積水ハウス	西日本旅客鉄道	東京海上日動火災保険
竹中工務店	卸売・小売業	アメリカンファミリー生命保険
製造業	岩谷産業	SMBC 日興証券
アシックス	トラスコ中山	三井住友カード
イトーキ	阪和興業	飲食店・宿泊業
月桂冠	MonotaRO	大阪ヒルトン
コニシ	金融・保険業	帝国ホテル
ファミリア	日本銀行	医療・福祉
MeijiSeika ファルマ	三菱東京 UFJ 銀行	医療法人尚和会 宝塚第一病院
情報通信・出版業	三井住友銀行	サービス業
エヌ・ティ・ティ・ドコモ	みずほフィナンシャルグループ	SMBC センターサービス
日本総合研究所	関西アーバン銀行	JTB 関西
運輸業	紀陽銀行	高見（TAKAMI BRIDAL）
全日本空輸	但馬銀行	公務
日本航空	中国銀行	大阪市
ANA エアポートサービス	尼崎信用金庫	
ANA 大阪空港	兵庫六甲農業協同組合	

業種別に記載

進学先（2013年度）

学校名	人数	学校名	人数
兵庫教育大学大学院学校教育研究科	3	神戸親和女子大学大学院文学研究科	1
神戸大学大学院国際協力研究科	1	関西学院大学大学院文学研究科	1
奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科	1	大阪音楽大学大学院音楽研究科	1
鳴門教育大学大学院学校教育研究科	2	東京音楽大学大学院音楽研究科	1
大阪大学大学院文学研究科	2	立命館大学大学院国際関係研究科	1
大阪大学大学院言語文化研究科	1	神戸女学院大学大学院文学研究科	9
大阪教育大学大学院教育学研究科	2	神戸女学院大学大学院音楽研究科	8
横浜国立大学大学院環境情報学府	1	神戸女学院大学大学院人間科学研究科	9
上智大学大学院総合人間科学研究科	1		

年度毎の就職決定状況

	卒業生数	希望者数	決定者数	決定者／ 希望者	進学者数	決定者／ (卒業生－進学者)	
2009年度	英文	147	126	108	85.7%	7	77.1%
	総合文化	218	189	163	86.2%	7	77.3%
	音楽	55	26	26	100.0%	8	55.3%
	心理・行動	111	91	82	90.1%	9	80.4%
	環境・バイオサイエンス	83	72	67	93.1%	5	85.9%
	総計	614	504	446	88.5%	36	77.2%

2010年度	英文	160	128	123	96.1%	8	80.9%
	総合文化	220	182	159	87.4%	2	72.9%
	音楽	51	19	16	84.2%	6	35.6%
	心理・行動	99	79	72	91.1%	7	78.3%
	環境・バイオサイエンス	95	78	70	89.7%	7	79.5%
	総計	625	486	440	90.5%	30	73.9%

2011年度	英文	174	145	130	89.7%	4	76.5%
	総合文化	222	191	170	89.0%	2	77.3%
	音楽	48	25	20	80.0%	10	52.6%
	心理・行動	90	68	63	92.6%	6	75.0%
	環境・バイオサイエンス	79	65	59	90.8%	7	81.9%
	総計	613	494	442	89.5%	29	75.7%

2012年度	英文	183	149	144	96.6%	5	80.9%
	総合文化	224	187	179	95.7%	8	82.9%
	音楽	48	23	23	100%	5	53.5%
	心理・行動	96	72	69	95.8%	4	75.0%
	環境・バイオサイエンス	91	78	77	98.7%	5	89.5%
	総計	642	509	492	96.7%	27	80.0%

2013年度	英文	159	128	122	95.3%	10	81.9%
	総合文化	223	188	181	96.3%	9	84.6%
	音楽	52	17	15	88.2%	12	37.5%
	心理・行動	95	71	67	94.4%	8	77.0%
	環境・バイオサイエンス	83	71	67	94.4%	6	87.0%
	総計	612	475	452	95.2%	45	79.7%

備考 前期末卒業を含まない
 就職者：正規の職員・従業員、自営業主等（音楽講師等、自営とみなした者を含む）
 正規の職員ではない者（雇用期間が1年以上かつフルタイム勤務相当の者）
 進学者：大学院進学者のみ（海外大学院含む）

● 神戸女学院中高部 進学状況は非公表

Ⅲ. 財務の概要

1 2013年度決算の概要

まず、収入の部については、大学において在籍数の多かった学年が卒業したことに伴い、在校生数がやや減少し、学生生徒等納付金は前年度比 80 百万円の減となりました。また、私立大学等経常費補助において、文部科学省の私立大学等改革総合支援事業タイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」(大学教育質転換型)に採択され、増額対象となり特別補助は増加したものの、一般補助においては算定基準の変更に伴い減少し、経常費補助は前年度比 60 百万円の減、一方バリアフリー化整備工事をはじめとする施設整備費補助金等を確保した結果、補助金収入は全体で 31 百万円の減となりました。しかし、有価証券売却差額として、売却益 26 百万円を計上するほか、私学退職金財団交付金収入の増(33 百万円増)により、帰属収入は 52 億 32 百万円(前年度比 58 百万円減)となりました。

次に、消費支出の部については、前年に引き続き、本年度も定年退職者が多く人件費が高水準で推移し、また、受験生確保を目的に入試広報を強化したことによる広告宣伝費の増加等から、前年度比 39 百万円増の 47 億 88 百万円となりました。

その結果、帰属収支差額は 4 億 44 百万円の収入超過(前年度比 97 百万円減)となりましたが、帰属収支差額比率については 8.5%と、目標値である 8.8%をやや下回る結果となりました。

一方、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事に伴う建設仮勘定の増加(2 億 66 百万円)や、空調設備改修工事に伴う建物支出(講堂・ソールチャペル 30 百万円、中高部 1 号館 18 百万円他)などの設備投資や、設備投資にかかる借入金返済(42 百万円)等に、奨学基金への組入れ 1 億 25 百万円を加え、本年度は 5 億 35 百万円の基本金組入が必要となり、消費収支差額は、91 百万円の消費支出超過、翌年度繰越消費支出超過額は 9 億 77 百万円となりました。2014 年度には、中高部コムセンターの改修等を計画していることから、今後も更なる繰越消費支出超過が見込まれるため、引き続き収支均衡に向けた努力を進めてまいります。

また、資金収支についてみると、収入の部は、学生生徒等納付金等の減を債券売却収入や私学退職金財団交付金収入の増加によってカバーし、ほぼ前年並みの収入を確保しました。一方、支出の部は、ヴァージニア・クラークソン記念館をはじめとする設備投資に充当したものの(施設関係支出 1 億 57 百万円増、設備関係支出 28 百万円増)、借入金の繰上償還を実施した前年度に比べ借入金等返済支出が減少(1 億 84 百万円減)したため、次年度繰越支払資金は前年度比 50 百万円増の 26 億 17 百万円となりました。

2 資金収支計算書

資金収支計算書は、学校法人における当年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当年度における現金・預金の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。

大科目レベルの資金収支計算書は、表 1 のとおりとなりました。(本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません)

2013 年度の本学院の資金収支計算書の概要について補正後の予算と対比しながら以下に記載します。

収入の部

【学生生徒等納付金収入】

授業料や入学金などの学生生徒等納付金収入は、予算どおりの 41 億 51 百万円となりました。

【手数料収入】

入学検定料などによる手数料収入は、入試制度の追加設定や広報活動の強化等を図った結果、予算比 7 百万円増の 90 百万円となりました。

【寄付金収入】

本学院在校生の保護者、同窓生、企業や団体、教職員などからの寄付による寄付金収入は、予算比 9 百万円増の 70 百万円となりました。なお、資金収支計算書には、現預金の動きを伴わない現物寄付金

は含まれていません。

【補助金収入】

国や地方公共団体等からの補助金収入は、私立大学等経常費補助金の算定基準の変更等に伴い、見積金額にやや届かず、予算比9百万円減の4億89百万円となりました。

【資産運用収入】

運用資産は、前年度に引き続き、安全性を重視しつつ、市況の動向をふまえて債券売買を実施した結果、予算をやや上回る59百万円の収入を確保しました。

【資産売却収入】

市況の動向をふまえ、適時に債券を売却し、含み益を実現させた結果、47百万円の収入を確保することができました。

【事業収入】

事業収入は、ほぼ予算どおりの91百万円となりました。主な内訳は、学生寮の寮費収入や公開講座等収入などによるものです。

【雑収入】

雑収入は、主に私学退職金財団からの交付金収入によるものであり、ほぼ予算通りとなりました。

【借入金等収入】

本年度は、新規借入はありません。

【前受金収入】

2014年度の授業料や入学金などで構成される前受金収入は、入学生が予測人数より増加したため、予算比4百万円増の8億21百万円となりました。

【その他の収入】

その他の収入は、ほぼ予算通りの2億51百万円となりました。本年度も、退職給与引当金の減少に伴い退職給与引当特定資産を取り崩しています。

支出の部

【人件費支出】

教職員の給与・賞与や退職金の支払いによる人件費支出は、予算どおりの31億7百万円となりました。

【教育研究経費支出】

教育研究のために支出した経費は、予算比11百万円の減となりました。主として、消耗図書費支出や業務委託費支出の減によるものです。

【管理経費支出】

管理経費は、予算比17百万円減の3億1百万円となりました。主として、印刷製本費支出の減によるものです。

【借入金等利息支出】

借入金等利息支出の4百万円は、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の支払利息額です。

【借入金等返済支出】

前記、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の約定返済分です。

【施設関係支出】

土地、建物や構築物などへの支出である施設関係支出は、予算比46百万円減の4億18百万円となりました。これは、文学部1号館改修工事の工期が延長となり、3月中に工事が完了しなかったことによるものです。主な内訳は、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事にかかる建設仮勘定支出(2億65百万円)、講堂・ソールチャペル空調設備改修工事をはじめとする建物支出(1億37百万円)などです。

【設備関係支出】

教育研究用機器備品や資産計上する図書などへの支出で構成される設備関係支出は、1億29百万円となりました。主な内訳は、中上部IT教室全面リプレースやMedia Site Live 6などの教育研究用機器備品支出(88百万円)、図書支出(22百万円)などへの支出によるものです。

【資産運用支出】

資産運用支出は、ほぼ予算どおりの1億40百万円となりました。主な内訳は、第3号基本金引当資産への積増し分(1億25百万円)です。

(表1)資金収支計算書

(単位:百万円)

収入の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)	対前年度比増減要因
学生生徒等納付金収入	4,151	4,151	4,231	△ 80	在籍学生数の多かった学年の卒業等に伴い、大学では在籍学生数が50名以上減少し、大学院においても前年度比13名減となったこと等から、前年度比80百万円の減となりました。
手数料収入	82	90	89	1	入学検定料などの手数料収入は、大学において入試制度を一部変更したことなどにより志願者数がやや増加し、前年度並みの収入を確保しました。
寄付金収入	61	70	74	△ 4	教育振興会を通じた寄付が中心で、前年度比4百万円の減となりました。
補助金収入	499	489	520	△ 31	私立大学等経常費補助金は減少したものの(60百万円)、バリアフリー化整備工事ははじめとする施設整備費補助金やIT教育設備整備推進事業費(計46百万円)を計上した結果、31百万円の減にとどまりました。
資産運用収入	58	59	68	△ 9	本年度は市場動向を踏まえ、複数銘柄の債券を売却した結果、利金収入は9百万円減少しましたが、売却益を加味すると、資産運用に伴う収入は前年度比増となっています。
資産売却収入	47	47	0	47	本年度計上分は全て有価証券売却収入であり、有価証券や特定資産に含まれている保有債券を売却したことによる売却益等が計上されています。
事業収入	92	91	92	△ 1	学生寮の運営や公開講座の開講に伴う収入が主であり、例年並みの収入を確保することができました。
雑収入	248	248	211	37	前年度に引き続き、今年度も定年退職者が多かったため、私学退職金財団交付金収入が前年度比33百万円の増となりました。
前受金収入	817	821	814	7	翌年度の授業料や入学金などの前受金収入は、ほぼ前年度並みとなりました。
その他の収入	251	251	228	23	前年度も退職者が多く、退職金財団からの未収入金を例年より多額計上していたことから、前期末未収入金収入が前年度比54百万円増となり、全体としては前年度比23百万円の増となりました。
資金収入調整勘定	△ 1,017	△ 1,044	△ 1,034	△ 10	2013年度大学入学者が2012年度に比べ約30名減少したことによる前期末前受金の減(27百万円)と私学退職金財団交付金収入や補助金収入等の期末未収入金の増(37百万円)です。
前年度繰越支払資金	2,567	2,567	2,550	17	
収入の部合計	7,857	7,844	7,847	△ 3	
支出の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)	対前年度比増減要因
人件費支出	3,109	3,107	3,097	10	ほぼ、前年度並みの支出となりました。
教育研究経費支出	1,063	1,051	1,022	29	本年度は、中上部や図書館においてシステムのリプレース費用等が計上されており、前年度比では微増しています。
管理経費支出	319	301	289	12	受験者数確保の強化を図るため、広告宣伝費を増やした(16百万円増)ことなどによります。
借入金等利息支出	4	4	10	△ 6	借入金返済に伴う借入金元本の減少によるものです。
借入金等返済支出	102	102	286	△ 184	前年度は、約定返済1億22百万円に加えて繰上償還(1億64百万円)を実施しましたが、今年度は約定返済のみ実施したため、減少しています。
施設関係支出	465	418	261	157	本年度は、ヴァージニア・クラークソン記念館の新築工事にかかる建設仮勘定支出(2億65百万円)が計上されていることから、International Students Houseの用地購入(1億50百万円)を行った前年度と比べても支出増となっています。
設備関係支出	150	129	101	28	本年度の主な内訳は、中上部IT教室全面リプレース(15百万円)やMedia Site Live 6(12百万円)などの教育研究用機器備品支出(88百万円)、図書支出(22百万円)、教育研究用ソフトウェア支出(11百万円)です。
資産運用支出	136	140	138	2	本年度の主な内訳は、第3号基本金引当資産支出(1億25百万円)です。
その他の支出	128	130	157	△ 27	設備関係未払金の減等に伴う前期末未払金支払支出の減(△25百万円)により、前年度比減となっています。
資金支出調整勘定	△ 151	△ 157	△ 85	△ 72	期末未払金の増(76百万円)や前期末前払金の減(4百万円)によるものです。
次年度繰越支払資金	2,531	2,617	2,567	50	以上の要因により、本年度末の現金と預金の残高は、前年度比50百万円の増となりました。
支出の部合計	7,857	7,844	7,847	△ 3	

3 消費収支計算書

消費収支計算書は、学校法人における今年度の消費収入（学校法人の負債とならない収入である帰属収入から基本金に組入れる額を控除して計算するもの）、消費支出（当該年度において消費する資産の取得価額及び用役の対価に基づいて計算するもの）の内容及び均衡状態を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。学校法人は営利法人ではないため、基本金組入れを行った後の消費収入と消費支出が長期的にほぼ同額でつり合うことが望ましいとされています。

大科目レベルの消費収支計算書は、表2のとおりです。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

2013年度の本学院の消費収支計算書の概要について以下に記載します。

消費収入の部

【帰属収入合計】

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入については、寄付金に現物寄付（0.4百万円）が含まれ、雑収入に退職給与引当金戻入額（2百万円）が含まれることを除き、ほぼ資金収支計算書の収入の部と同様の内容です。なお、資産売却差額については、有価証券の売却益を計上しています。

これにより帰属収入の合計は、予算比10百万円増の52億32百万円となりました。

【基本金組入額】

第1号基本金（学校法人が保有する固定資産のうち、教育の充実向上の用に供されるものを組み入れる）へ4億10百万円を組入れました。主な内訳としては、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事による建設仮勘定の増加（2億66百万円）や講堂・ソールチャペル空調設備改修工事に伴う建物支出（30百万円）などの固定資産取得によるもののほか、借入金返済分42百万円も組入れています。

また、第3号基本金（奨学金などの教育研究活動に基金の運用果実をもって運営するために組み入れる）へ1億25百万円を組入れました。

【消費収入の部】

上記により消費収入の部合計は、予算比1億35

百万円増加し、46億97百万円となりました。

消費支出の部

【消費支出の部】

人件費は、資金収支計算書の人件費支出から退職金支出（2億53百万円）を控除し、退職給与引当金繰入額（2億39百万円）を加算しています。

教育研究経費と管理経費は、資金収支計算書の各経費支出に減価償却額（計3億21百万円）を加算していることが大きな違いです。そのほかは、ほぼ資金収支計算書と同様であり、結果、消費支出の部は、予算比28百万円減の47億88百万円となりました。

(表2)消費収支計算書

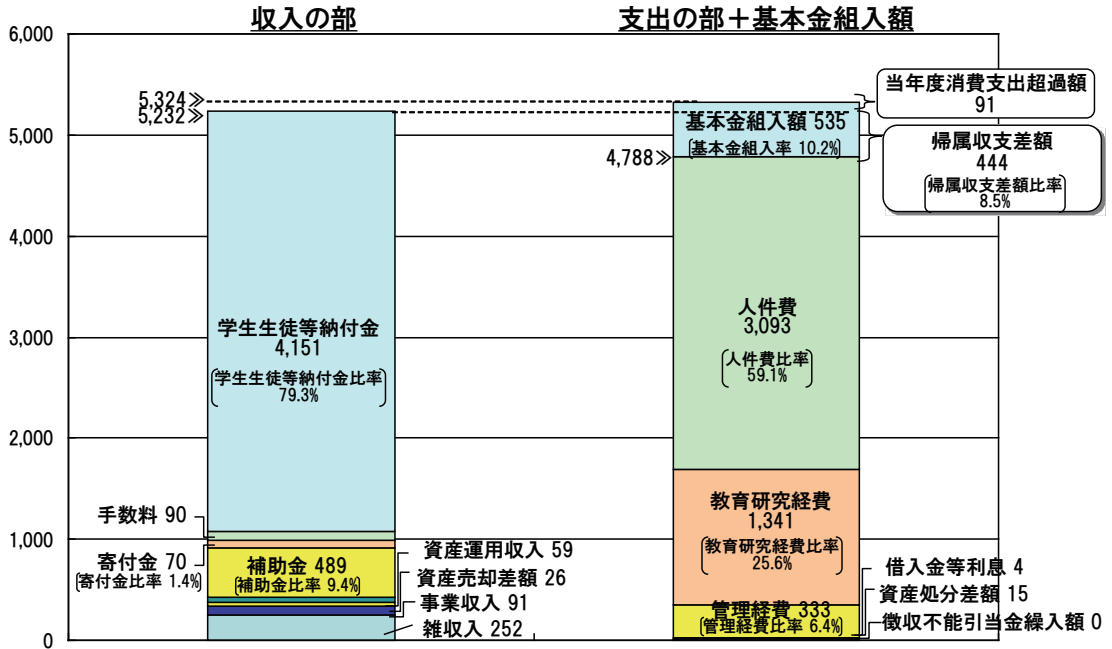
(単位:百万円)

消費収入の部					対前年度比増減要因
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)	
学生生徒等納付金	4,151	4,151	4,231	△ 80	資金収支計算書と同様です。
手数料	82	90	89	1	
寄付金	62	70	75	△ 5	資金収支計算書計上額に加え、教育研究用機器備品や図書等の現物寄付金0.4百万円を計上しています。
補助金	499	489	520	△ 31	資金収支計算書と同様です。
資産運用収入	58	59	68	△ 9	
資産売却差額	26	26	0	26	今年度は、保有債券の売却により、有価証券売却差額26百万円を計上しました。
事業収入	92	91	92	△ 1	資金収支計算書と同様です。
雑収入	250	252	211	41	資金収支計算書計上額に加え、退職給与引当金戻入額2百万円等を計上しています。
帰属収入合計	5,222	5,232	5,290	△ 58	以上の要因により、前年度比58百万円の減となりました。
基本金組入額合計	△ 661	△ 535	△ 628	93	今年度の主な組入内容は、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事による建設仮勘定増加(2億66百万円)に伴う組入、借入金返済に伴う組入(42百万円)、第3号基本金組入(1億25百万円)などです。
消費収入の部合計	4,561	4,697	4,661	36	消費収入の部合計は、前年度比36百万円増となりました。
消費支出の部					対前年度比増減要因
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)	
人件費	3,096	3,093	3,062	31	資金収支計算書から退職金支出を控除し、退職給与引当金繰入額を加算しています。
教育研究経費	1,353	1,341	1,342	△ 1	資金収支計算書に減価償却費(2億89百万円)を加算しています。要因は、資金収支計算書と同様です。
管理経費	351	333	321	12	資金収支計算書に減価償却費(32百万円)を加算しています。要因は、資金収支計算書と同様です。
借入金等利息	4	4	10	△ 6	資金収支計算書と同様です。
資産処分差額	12	15	7	8	各種改修工事等に伴い、固定資産処分差額は前年度比7百万円増加しています。また、本年度は有価証券処分差額として、債券の満期償還損0.7百万円が含まれています。
徴収不能引当金繰入額	—	0	4	△ 4	前年度より、貸与奨学金にかかる徴収不能見込額を計上しています。
消費支出の部合計	4,816	4,788	4,749	39	消費支出の部合計は、前年度比39百万円の増となりました。
当年度消費収入 (△支出)超過額	△ 255	△ 91	△ 87	△ 4	以上の要因により、本年度の消費支出超過額は、前年度並みとなりました。
前年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 886	△ 886	△ 798	△ 88	
翌年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 1,141	△ 977	△ 886	△ 91	以上の要因により、消費収支差額の部は、前年度より支出超過額が91百万円増加し、9億77百万円の繰越消費支出超過となりました。
帰属収支差額	405	444	541	△ 97	帰属収入合計から消費支出の部合計を差し引いたもので、学校の施設設備等の取得財源や借入金の返済財源となります。(企業会計上の当期利益金にほぼ相当するものです。)

(図1)

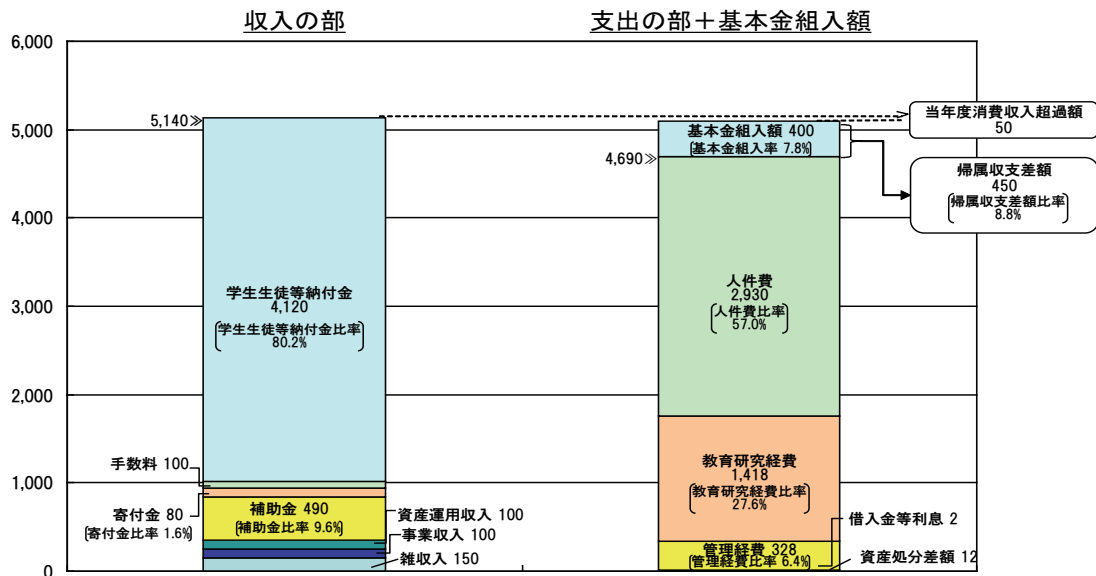
2013(平成25)年度消費収支の概要

(単位:百万円)



2013~2017年度 目標消費収支の概要

(単位:百万円)



(表3)消費収支内訳表(2013(平成25)年度)

(単位:百万円)

消費収入の部				
部門	学校法人	神戸女学院 大学	神戸女学院 高等学部	神戸女学院 中学部
学生生徒等納付金	—	3,518	299	334
手数料	—	85	0	5
寄付金	—	58	6	6
補助金	—	253	118	117
資産運用収入	—	45	6	6
資産売却差額	—	20	3	3
事業収入	—	91	—	—
雑収入	0	179	63	9
帰属収入合計	0	4,251	498	483
基本金組入額合計	—	△ 226	△ 157	△ 151
消費収入の部合計	0	4,025	340	331

(単位:百万円)

消費支出の部				
部門	学校法人	神戸女学院 大学	神戸女学院 高等学部	神戸女学院 中学部
人件費	48	2,455	345	244
教育研究経費	—	1,104	122	114
管理経費	8	289	17	17
借入金等利息	—	3	0	0
資産処分差額	—	7	4	4
徴収不能引当金繰入額	—	0	—	—
消費支出の部合計	56	3,860	489	381

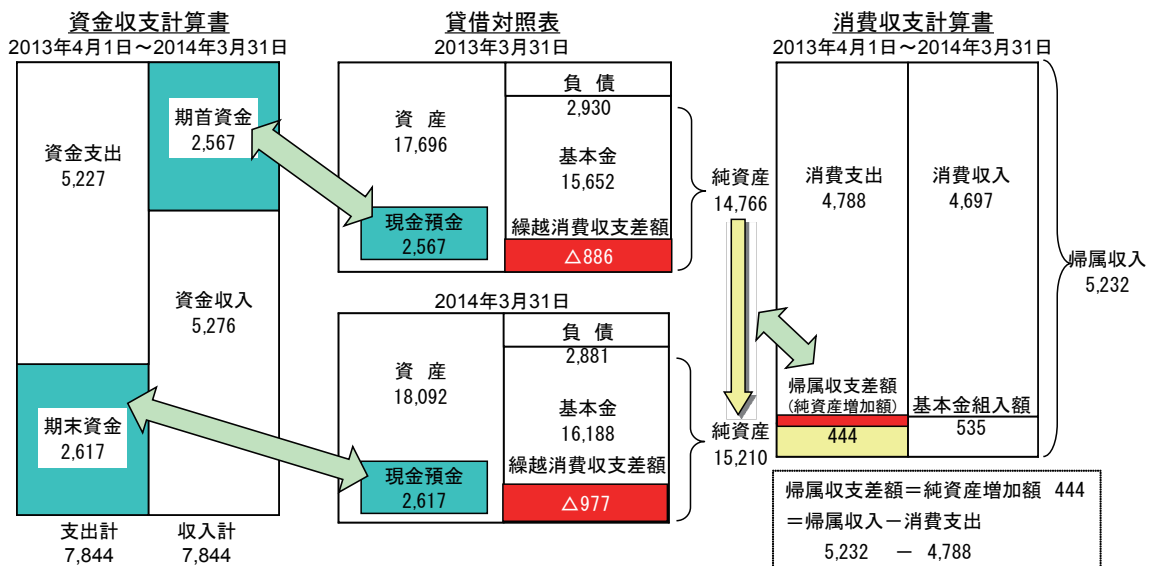
帰属収支差額	△ 56	390	8	101
消費収支差額	△ 56	164	△ 148	△ 49

注)学校法人部門は、昭和55年11月4日付文管企第250号「資金収支内訳表等の部門別計上及び配分について(通知)」により、限定列挙された範囲の取引を計上しています。(いわゆる法人本部業務に係る取引よりも限定された範囲の取引を計上することとなります。例えば、理事会や役員等の庶務に関するなどが該当します。)

(図2)

2013(平成25)年度決算の概要

(単位:百万円)



- ①資金収支計算書：学校法人のその年度の教育研究活動やこれに付随する活動に対応するすべての収入と支出の内容を明らかにし、現金預金の1年間(4月1日～3月31日)の動きを表すものです。
- ②消費収支計算書：学校法人の1年間(4月1日～3月31日)の収支状況を表すものです。
帰属収入と消費支出の内容を明らかにし、また消費支出が消費収入により賄われているかを表します。
「基本金」:取得した施設設備(第1号)+施設設備の将来取得に向けた先行組入れ(第2号)+各種基金(第3号)+運転資金(第4号)
⇒帰属収入のうち、学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべき額として決定した金額
- ③貸借対照表：年度末における学校法人の資産、負債の内容、純資産(資産-負債)の額を明らかにするものです。
また、基本金(維持すべき金額)に対する純資産の過不足状態を消費収支差額として表します。

注:単位未満を切捨表示しているため、内訳等を加算したものと合計等は一致しません。

4 貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末（2014年3月31日）における学校法人の財政状態を明らかにするために作成します。2013年度の本学院の貸借対照

表（大科目レベル）の概要は表4のとおりです。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

（表4）貸借対照表

（単位：百万円）

資産の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
固定資産	15,235	14,927	308	
有形固定資産	8,822	8,611	211	
土地	1,323	1,323	0	
建物	4,268	4,326	△ 58	講堂・ソールチャペル空調設備改修工事や中高部1号館空調熱源改修工事等による増加と減価償却に伴う減少です。
構築物	532	544	△ 12	主に、減価償却に伴う減少です。
教育研究用機器備品	441	445	△ 4	中高部IT教室全面リプレースやMedia Site Live 6をはじめとする機器備品の導入による増加と、減価償却に伴う減少です。
その他の機器備品	23	25	△ 2	
図書	1,961	1,940	21	図書の購入等による増加です。
車両	0	0	0	
建設仮勘定	271	4	267	ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事に伴う支出を計上しています。
その他の固定資産	6,413	6,316	97	
教育研究用ソフトウェア	38	37	1	
その他のソフトウェア	17	16	1	
電話加入権	3	3	0	
有価証券	406	426	△ 20	内容は政府関係機関債であり、地方債を売却したため、本年度末残高が減少しています。
差入保証金	3	3	0	
出資金	19	19	0	
貸与奨学金	277	287	△ 10	
退職給与引当特定資産	1,456	1,472	△ 16	将来の退職金の支払を想定した特定資産です。引当金の減少により取崩しました。一部の事業債や銀行預金等で運用しています。
減価償却引当特定資産	3,136	3,136	0	減価償却対象資産の将来の更新を目的とした特定資産です。地方債や一部の事業債、銀行預金等で運用しています。
岡田山建築保存引当特定資産	81	67	14	岡田山キャンパスの創建建築保存のための費用に充てることを目的とした特定資産です。内容は銀行預金です。
第3号基本金引当資産	970	845	125	第3号基本金に係る資産です。地方債や銀行預金で運用しています。
その他	0	0	0	
流動資産	2,857	2,768	89	
現金預金	2,599	2,550	49	現預金は、前年度比49百万円増の25億99百万円となりました。
修学旅行費預り資産	17	17	△ 0	現預金のうち、中高部の修学旅行等費用の預り金に対応する額を区分して表示しています。
未収入金	229	191	38	未収入金は、主に補助金や私学退職金財団からの交付金収入です。
前払金	10	9	1	
資産の部合計	18,092	17,696	396	以上により、資産の部合計は、前年度比3億96百万円の増となりました。

(単位:百万円)

負債の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
固定負債	1,706	1,829	△ 123	
長期借入金	246	348	△ 102	日本私立学校振興・共済事業団からの借入金であり、短期借入金への振替1億2百万円によるものです。
退職給与引当金	1,456	1,472	△ 16	勤続年数の長い教職員の退職により減少しています。
長期未払金	4	9	△ 5	延払金の減少によるものです。
流動負債	1,175	1,100	75	
短期借入金	102	102	0	借入金のうち、1年以内に返済予定のものです。
未払金	156	85	71	本年度は中上部IT教室全面リプレースにかかる未払金(41百万円)など、設備関連の未払金が増加しています。
前受金	821	814	7	主に、翌年度の授業料や入学金などの前受金を計上しており、著変動はありません。
預り金	77	81	△ 4	
修学旅行費預り金	17	17	△ 0	預り金のうち、中上部の修学旅行等費用分を区分して表示しています。
負債の部合計	2,881	2,930	△ 49	

基本金の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
第1号基本金	14,844	14,434	410	本年度の増加額は、学校法人が保有する固定資産のうち、新たに取得した基本財産を基本金として組入れた金額の合計です。本年度の増加は、主に建設仮勘定の増加や借入金の返済によるものです。
第3号基本金	970	845	125	奨学基金等に組入れた金額の合計です。
第4号基本金	373	373	0	運営に必要な運転資金として恒常的に保持すべきとされる金額であり、教職員人件費支出、教育研究経費・管理経費支出及び借入金利息支出の1ヶ月分です。増減はありません。
基本金の部合計	16,188	15,652	536	

消費収支差額の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 977	△ 886	△ 91	消費収支差額の部は、支出超過が前年度より91百万円拡大し、9億77百万円の繰越消費支出超過となりました。
消費収支差額の部合計	△ 977	△ 886	△ 91	

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	18,092	17,696	396	

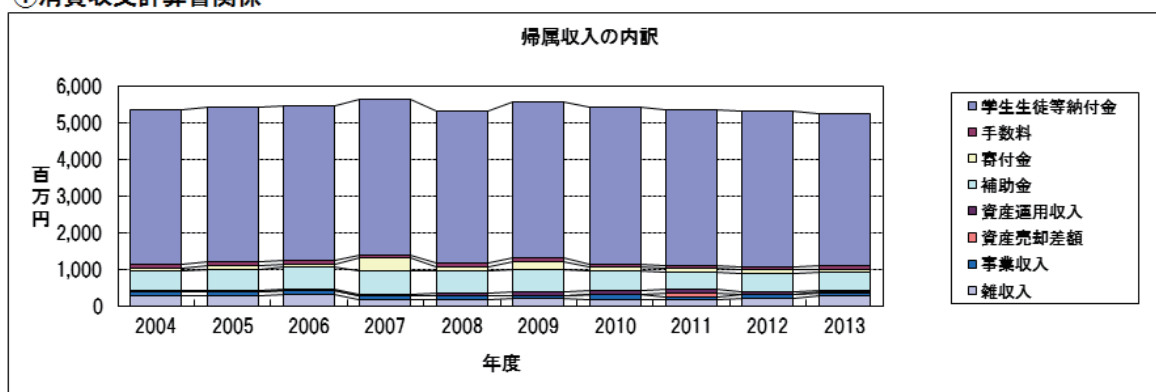
5 財務データの推移

過去10年間の消費収支計算書、貸借対照表の概要及び財務諸比率の推移は表5のとおりです。(本表では、消費収支計算書、貸借対照表は、単位未満

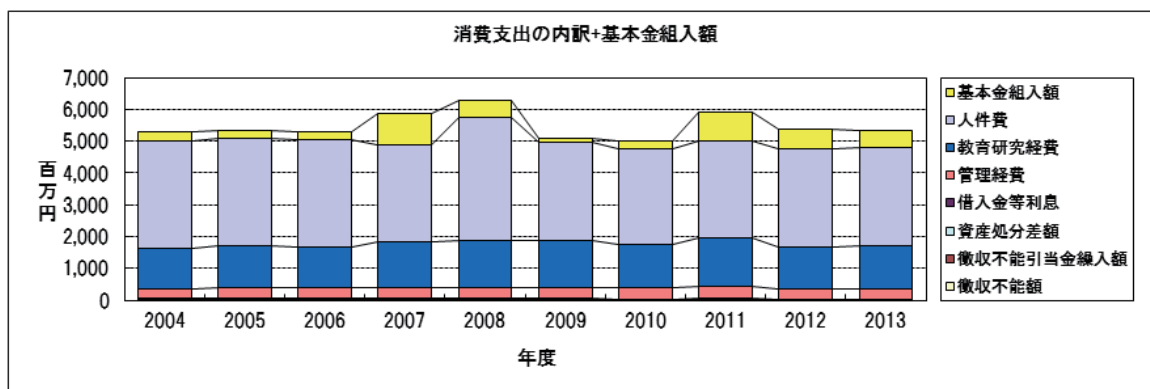
を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。また、財務諸比率は単位未満を四捨五入して表示しています)

(表5)財務データ推移

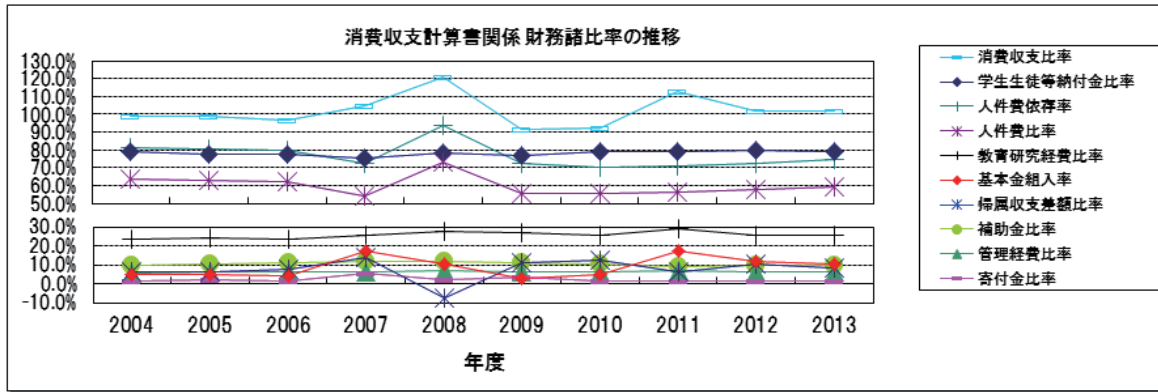
①消費収支計算書関係



	(年度、単位:百万円)										
	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	
学生生徒等納付金	4,220	4,189	4,229	4,245	4,154	4,262	4,283	4,231	4,231	4,151	
手数料	113	104	106	105	99	96	97	98	89	90	
寄付金	80	112	73	329	112	210	73	82	75	70	
補助金	532	571	605	647	613	619	562	491	520	489	
資産運用収入	26	28	37	53	76	103	115	100	68	59	
資産売却差額	0	0	0	2	0	0	-	93	0	26	
事業収入	101	105	100	102	95	87	109	61	92	91	
雑収入	270	284	306	153	170	179	178	175	211	252	
帰属収入合計	5,347	5,397	5,459	5,640	5,322	5,560	5,420	5,335	5,290	5,232	
基本金組入額	△ 271	△ 274	△ 233	△ 983	△ 560	△ 161	△ 262	△ 924	△ 628	△ 535	
消費収入の部合計	5,075	5,123	5,226	4,656	4,761	5,398	5,157	4,411	4,661	4,697	



	(年度、単位:百万円)										
	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	
人件費	3,412	3,381	3,374	3,060	3,876	3,084	3,016	3,013	3,062	3,093	
教育研究経費	1,243	1,315	1,274	1,428	1,458	1,480	1,367	1,549	1,342	1,341	
管理経費	309	321	351	331	360	335	337	355	321	333	
借入金等利息	48	45	42	39	35	32	29	26	10	4	
資産処分差額	7	13	17	12	6	11	9	40	7	15	
徴収不能引当金繰入額	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	
徴収不能額	1	2	-	3	1	-	-	0	-	-	
消費支出の部合計	5,022	5,078	5,059	4,876	5,738	4,945	4,761	4,986	4,749	4,788	
帰属収支差額	324	319	399	763	△ 416	614	658	348	541	444	
消費収支差額	52	44	166	△ 220	△ 976	453	396	△ 575	△ 87	△ 91	



(年度、単位：%)

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
人件費比率	63.8%	62.6%	61.8%	54.3%	72.8%	55.5%	55.7%	56.5%	57.9%	59.1%
人件費依存率	80.8%	80.7%	79.8%	72.1%	93.3%	72.4%	70.4%	71.2%	72.4%	74.5%
教育研究経費比率	23.3%	24.4%	23.3%	25.3%	27.4%	26.6%	25.2%	29.1%	25.4%	25.6%
管理経費比率	5.8%	6.0%	6.4%	5.9%	6.8%	6.0%	6.2%	6.7%	6.1%	6.4%
学生生徒等納付金比率	78.9%	77.6%	77.5%	75.3%	78.1%	76.7%	79.0%	79.3%	80.0%	79.3%
寄付金比率	1.5%	2.1%	1.4%	5.8%	2.1%	3.8%	1.3%	1.5%	1.4%	1.4%
補助金比率	10.0%	10.6%	11.1%	11.5%	11.5%	11.2%	10.4%	9.2%	9.8%	9.4%
帰属収支差額比率	6.1%	5.9%	7.3%	13.5%	△ 7.8%	11.1%	12.2%	6.5%	10.2%	8.5%
消費収支比率	99.0%	99.1%	96.8%	104.7%	120.5%	91.6%	92.3%	113.1%	101.9%	101.9%
基本金組入率	5.1%	5.1%	4.3%	17.4%	10.5%	2.9%	4.8%	17.3%	11.9%	10.2%

【参考】

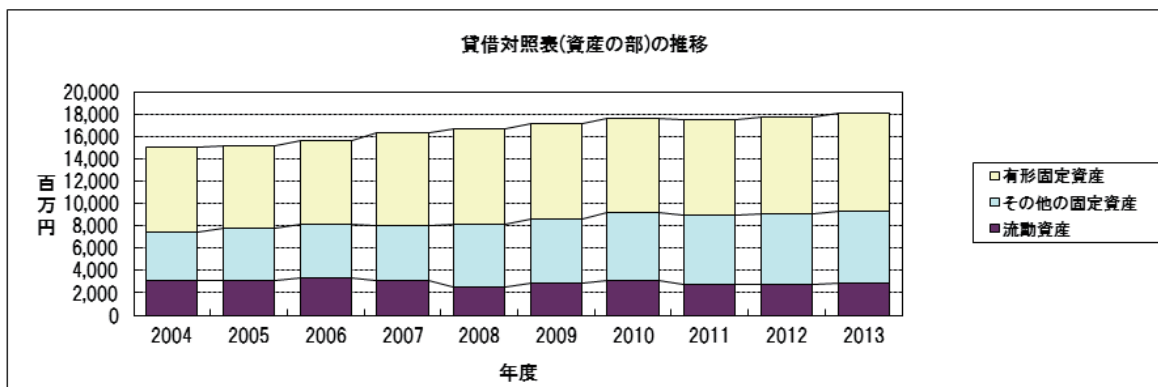
比率名	計算式	考え方	本学院 2013年度	全国平均	全国平均 (医歯系除く)	同規模平均
人件費比率	人件費÷帰属収入×100	低い値が良い	59.1%	49.5%	52.8%	50.7%
人件費依存率	人件費÷学生生徒等納付金×100	低い値が良い	74.5%	94.0%	71.9%	94.7%
教育研究経費比率	教育研究経費÷帰属収入×100	高い値が良い	25.6%	36.1%	31.2%	34.4%
管理経費比率	管理経費÷帰属収入×100	低い値が良い	6.4%	7.2%	9.2%	8.0%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金÷帰属収入×100	どちらも言えない	79.3%	52.6%	73.4%	53.6%
寄付金比率	寄付金÷帰属収入×100	高い値が良い	1.4%	1.9%	2.0%	1.3%
補助金比率	補助金÷帰属収入×100	高い値が良い	9.4%	10.3%	12.6%	12.4%
帰属収支差額比率	(帰属収入-消費支出)÷帰属収入×100	高い値が良い	8.5%	5.2%	4.8%	4.6%
消費収支比率	消費支出÷消費収入×100	低い値が良い	101.9%	105.2%	107.9%	104.1%
基本金組入率	基本金組入額÷帰属収入×100	高い値が良い	10.2%	9.9%	11.7%	8.4%

資料：「平成24年度版今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)

注1：全国平均(539大学法人)、全国平均(医歯系除く)(500大学法人)、同規模平均(108大学法人)は、2012(平成24)年度決算の平均値

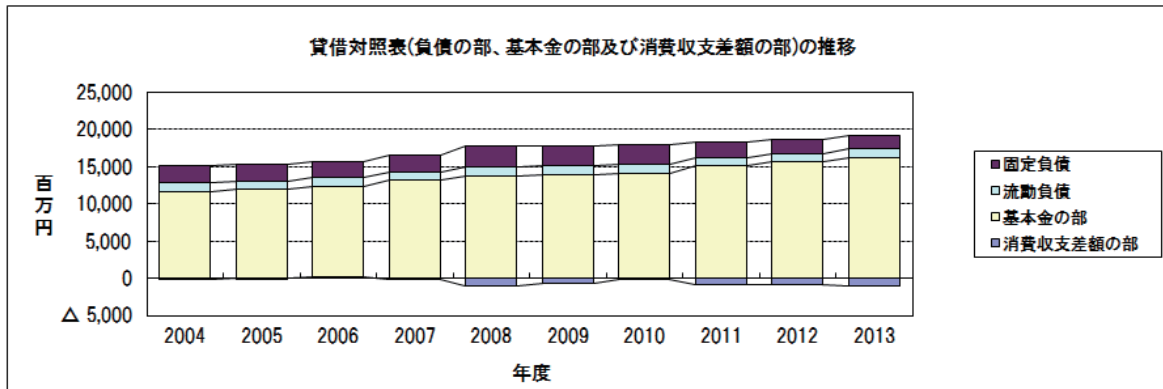
注2：同規模平均は、学生生徒数3～5千人規模の大学法人の平均値

②貸借対照表関係



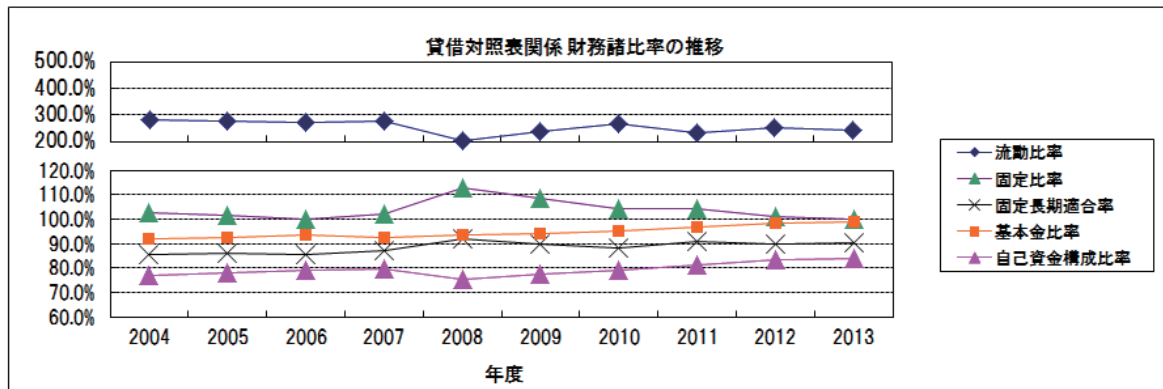
(年度、単位：百万円)

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
有形固定資産	7,525	7,481	7,393	8,359	8,547	8,587	8,412	8,622	8,611	8,822
その他の固定資産	4,324	4,584	4,850	4,895	5,681	5,727	6,072	6,211	6,316	6,413
流動資産	3,146	3,139	3,315	3,067	2,458	2,814	3,108	2,699	2,768	2,857



(年度、単位:百万円)

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
固定負債	2,344	2,215	2,090	2,193	2,883	2,722	2,544	2,138	1,829	1,706
流動負債	1,115	1,133	1,213	1,110	1,199	1,189	1,171	1,169	1,100	1,175
基本金の部	11,649	11,923	12,156	13,135	13,696	13,839	14,099	15,023	15,652	16,188
消費収支差額の部	△ 113	△ 68	98	△ 116	△ 1,093	△ 621	△ 222	△ 798	△ 886	△ 977
【参考】自己資金 (基本金+消費収支差額)	11,536	11,855	12,255	13,018	12,602	13,217	13,876	14,225	14,766	15,210



(年度、単位:%)

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
流動比率	282.1%	276.8%	273.2%	276.2%	204.9%	236.6%	265.3%	230.8%	251.5%	243.1%
固定比率	102.7%	101.8%	99.9%	101.8%	112.9%	108.3%	104.4%	104.3%	101.1%	100.2%
固定長期適合率	85.4%	85.8%	85.3%	87.1%	91.9%	89.8%	88.2%	90.6%	90.0%	90.1%
基本金比率	91.8%	92.6%	93.3%	92.6%	93.6%	94.2%	94.9%	96.9%	98.6%	98.8%
自己資金構成比率	76.9%	78.0%	78.8%	79.8%	75.5%	77.2%	78.9%	81.1%	83.4%	84.1%

【参考】

比率名	計算式	考え方	本学院 2013年度	全国平均	全国平均 (医歯系除く)	同規模平均
流動比率	流動資産÷流動負債×100	高い値が良い	243.1%	242.8%	237.1%	302.2%
固定比率	固定資産÷自己資金×100	低い値が良い	100.2%	100.5%	99.5%	95.6%
固定長期適合率	固定資産÷(自己資金+固定負債)×100	低い値が良い	90.1%	91.1%	91.9%	88.4%
基本金比率	基本金÷基本金要組入額×100	高い値が良い	98.8%	96.9%	97.1%	97.4%
自己資金構成比率	自己資金÷総資金×100	高い値が良い	84.1%	85.3%	87.2%	87.3%

資料:「平成24年度版今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)

注 1: 全国平均(539大学法人)、全国平均(医歯系除く)(500大学法人)、同規模平均(108大学法人)は、2012(平成24)年度決算の平均値

注 2: 同規模平均は、学生生徒数3~5千人規模の大学法人の平均値

注 3: 自己資金=基本金+消費収支差額、総資金=負債+基本金+消費収支差額

IV. 事業計画

1 今後の運営方針及び2014年度予算編成について

神戸女学院は1875年に創立され、キリスト教信仰と国際理解の精神を教育の根幹に、豊かな自然とヴォーリズ建築の校舎群が美しく調和する岡田山のキャンパスにおいて女子教育における先駆的な役割を果たしてきました。関西で最も長い歴史を持つキリスト教主義学校として、大学ではリベラルアーツ&サイエンス教育を、また中高部は中高一貫教育を実践し、社会に必要とされる女性のリーダーを育成する使命を担ってきました。しかしながら、少子化の進行、グローバル化、また女子の進路志向の多様化など今日の教育環境の急激な変化のもと、本学院においても改革の方向性を一層明確に示しつつ教育の質を担保してゆくことが急務となっています。2014年度も教育の改革、推進に向けて、掲げる重点課題を主眼におきながら、事業計画が有効に進捗するよう適切な予算措置を行います。

大学においては、英語教育の強化、リベラルアーツ教育の整備、学修支援環境の充実等を取り組みの柱として多岐にわたる事業計画を遂行します。また、厳しい競争下での受験生確保を促進するために入試関連広報等を一層充実させます。中高部においても、近隣私学の募集形態の変更に伴い、受験生の獲得競争の波に巻き込まれており、広報活動等を一層充実させる必要に迫られています。

施設・設備面では、本年6月に竣工する中高部ヴァージニア・クラークソン記念館（旧2号館）、

並びに老朽化のために改修するコムセンターの改修・整備により、中高部の教育、学習環境が大幅に改善されます。また大学関係では、ジュリア・ダッドレー記念館、デフォレスト記念館、図書館、文学部1号館・2号館、理学館別館等で教育・研究環境の整備、建物保全を目的とした改修・設備工事を予定しています。

大学を取り巻く環境が厳しくなる中、収入面において学納金や国からの補助金の増加が見込めない一方で、支出面では、本年4月からの消費税増税や建物老朽化に伴う修繕費等固定的費用が恒常的に負担となっていくことから、2014年度以降の財政運営は一段と厳しさを増すことが予想されます。2014年度予算編成においては、予算申請内容の吟味と事業計画の優先度の精査に関し各部署にこれまで以上の努力を求め、重点課題の速やかな実現に資する事業に集中して予算配分しています。結果、単年度帰属収支は黒字を確保したものの、必要な基本金組入を行った後の翌年度繰越消費支出超過額は一段と拡大する見通しです。

2015年度からの更なる消費税増税をはじめ固定的経費の負担増等を考慮し、全教職員協力のもと収支構造の見直しを図り、諸経費の削減に努力しつつ、今後とも本学院の教育事業の理想を永続的に実現するための投資を行って参ります。

2 2014年度事業計画

教育・研究

a) 共通英語教育研究センター「英語手帳」の作成

全学的に基礎英語教育の質を高めることを目的として、新たな共通英語教育プログラムの開始にあわせて、2014年度新入生（英文学科除く）より、英語学習履歴を記録し、英語学習の把握・検証ツールとして活用できる英語手帳を作成します。

b) 女性学インスティテュート「神戸女学院大学で学ぶ女性学」（仮題）の出版

女性学の授業で扱っているテーマを展開し、授業でも使用できる女性学の入門書を作成、出版します。

c) 人間科学部「地域からESDを推進する女性環境リーダー」プロジェクト遂行補助

平成21年度科学技術総合推進費補助金選定事業の終了に伴い、現在受入中の第4期修了に要する経費を負担し、当プロジェクトの遂行を図ります。

d) 音楽学部「音大連携による教育イノベーション 音楽コミュニケーション・リーダー養成」

東京音楽大学、昭和音楽大学と連携した共通講座の開講、地方公共ホールとの連携プロジェクト、またザルツブルグ音楽院のウェブ・レッスン等を実施します。

e) 全学部「早期離職に歯止めをかけるキャリア支援」

OGやキャリアカウンセラーを活用して学内OG訪

間会を開催し、学生への情報提供を充実させることで、よりきめ細やかな就職支援体制を整備します。また、外部のキャリアカウンセラーを活用し、個別面談の充実を図ります。

f) 全学部「就職率向上のための就職支援」

全就職希望者を対象とした面談の実施や、就職支援講座（筆記試験対策講座、SPI 模擬試験、GD 実践講座等）の開講により、就職支援体制の強化を図ります。さらに、意識の高い学生向けの就職支援講座（KC キャリア塾、企業・業界研究ワークショップ、KC エアラインスクール）を開講し、就職状況の向上を目指します。

その他の事業

a) 音楽学部「舞踊年度公演」「舞踊卒業公演」の実施

音楽学科舞踊専攻学生の年度学習の成果発表としての「舞踊年度公演」、4年間の習得の総まとめとしての「舞踊卒業公演」を実施します。

b) 「神戸女学院大学第5回絵本翻訳コンクール」の実施

全国の高校生を対象とした「絵本翻訳コンクール」を実施します。

施設・設備

a) ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事

中高部の教育施設の拡充および今後の英語教育・教育活動の充実を図るため、6月の竣工に向けて、引き続き建替工事を実施します。

b) コムセンター改修工事

中高部における学院講堂の使用制限の緩和を図り、多種多様な学校行事や生徒活動のより一層の充実を図るため、旧2号館の機能に加え、多目的ホールやLL教室、クラブ部室等の設置も含めた改修工事を実施します。

c) 建物等の改修

大学において2013年度に実施した文学部1号館改修工事の2期工事として、エレベーター設置工事を実施します。（私立学校施設整備費補助金交付決定額10百万円）

さらに、大学ではジュリア・ダッドレー記念館外壁塗装工事、デフォレスト記念館屋上・2階廊下壁面補修工事等を実施します。また、図書館新館開架

図書照明改修工事により、ランニングコストの削減を図ります。

d) 教室・AV設備等の整備

理学館別館において、ワンウェイミラーの設置をはじめとする改修工事を行い、教育研究活動の向上を図ります。また、設備の劣化対応として、図書館では入退館システムをはじめとした設備の更新、デフォレスト記念館では証明書自動発行機の新機種導入や小教室の映像設備更新等を行います。

e) 管理体制の強化

セキュリティレベルの向上を図るため、鍵管理システムを導入します。また、情報の一元化を図りより適切な資産管理を行うため、ファシリティマネジメントシステムを導入します。

3 2014年度予算書

2014年度の資金収支予算書は表6、消費収支予算書は表7のとおりです。(本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。)

(表6)資金収支予算書

(単位:百万円)

収入の部					
科 目	2013年度 予算	2013年度 決算(A)	2014年度 予算(B)	(B)-(A)	2014年度当初予算の内容
学生生徒等納付金収入	4,151	4,151	4,125	△ 26	2013年度入試による入学者数を中学部140人、大学630名と見込み、定員の厳格化を図った影響から在籍学生数が微減すると想定し、前年度比26百万円減の予算としています。
手数料収入	82	90	82	△ 8	成績上位受験生を対象とした広報活動の強化や入試制度の大幅な変更により安定した入学者確保に努めますが、厳しい募集環境が続くことが予想されますので、前年度予算並みとしています。
寄付金収入	61	70	49	△ 21	寄付金収入は、主として教育振興会を通じての一般寄付の見込額を計上しています。2013年度は大口寄付金を受けたため、特殊要因を除外して2014年度の予算を見込みました。
補助金収入	499	489	458	△ 31	私立大学経常費補助金は算定基準変更による補助金減の影響を加味した上で、エレベータ設置に伴う私立学校施設整備費補助金等の収入を見込んでいます。
資産運用収入	58	59	86	27	リスク分散型での投資を前提とした上で、資金運用の効率化を徹底し、27百万円の増収を見込んでいます。
資産売却収入	47	47	—	△ 47	2013年度は債券の売却による有価証券売却収入を計上していましたが、2014年度においては、資産売却の予定はありません。
事業収入	92	91	91	△ 0	
雑収入	248	248	90	△ 158	主として定年退職予定者の退職金財団交付金を計上しています。2014年度は、定年退職予定者数が例年並みに戻るため、前年比1億58百万円減の90百万円を予算として見込んでいます。
前受金収入	817	821	690	△ 131	2015年度入学者数は、例年同様、中学部140名、大学630名として予算化していますが、2015年度入学者より入学金の値下げを実施するため、その値下げ分を見込んで予算化しています。
その他の収入	251	251	231	△ 20	主な内訳は、前期未収入金収入と貸与奨学金回収収入であり、ほぼ前年度並みの予算としています。
資金収入調整勘定	△ 1,017	△ 1,044	△ 886	158	
前年度繰越支払資金	2,567	2,567	2,531	△ 36	
収入の部合計	7,857	7,844	7,548	△ 296	
支出の部					
科 目	2013年度 予算	2013年度 決算(A)	2014年度 予算(B)	(B)-(A)	2014年度当初予算の内容
人件費支出	3,109	3,107	2,965	△ 142	2014年度は、定年退職者のみで計算しています。
教育研究経費支出	1,063	1,051	1,189	138	経常的な教育研究経費に加え、システム環境や授業・教育環境の改善を図るための設備投資にかかる費用についても追加で見込んでいます。
管理経費支出	319	301	349	48	2014年度も引き続き入試広報の強化を図るため、募集関連経費の増加を見込んでいます。
借入金等利息支出	4	4	3	△ 1	借入金の約定返済に伴い、支出減を見込んでいます。
借入金等返済支出	102	102	102	0	約定返済分を予算として見込んでいます。
施設関係支出	465	418	264	△ 154	中高部関連では、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事、コムセンター改修工事等を、大学関係では図書館やジュリア・ダッドレー記念館の塗装工事等を予定しています。
設備関係支出	150	129	204	75	証明書自動発行機の新機種導入8百万円、鍵管理システム導入9百万円などを予算化しています。
資産運用支出	136	140	137	△ 3	2011年度より奨学金の充実を目的として第3号基本金に毎年1億円積み増す計画としています。2014年度も引き続き、第3号基本金引当資産および岡田山建築保存引当特定資産への繰入を予定しています。
その他の支出	128	130	195	65	2013年度の期末未払金について、設備関係未払金の計上を見込み、前期未払金支払支出が増加すると想定し、2013年度実績比65百万円増の予算としています。
資金支出調整勘定	△ 151	△ 157	△ 110	47	2014年度期末の未払金について、設備未払金を計上しない前提で予算を見込んだ結果、2013年度実績比47百万円減の予算となりました。
次年度繰越支払資金	2,531	2,617	2,249	△ 368	
支出の部合計	7,857	7,844	7,548	△ 296	

(表7)消費収支予算書

(単位:百万円)

消費収入の部					
科 目	2013年度 予算	2013年度 決算(A)	2014年度 予算(B)	(B)-(A)	2014年度当初予算の内容
学生生徒等納付金	4,151	4,151	4,125	△ 26	寄付金に現物寄付、雑収入に退職給与引当金戻入額が含まれ、資産売却差額のみが計上される点を除き、資金収支計算書と同様です。
手数料	82	90	82	△ 8	
寄付金	62	70	50	△ 20	
補助金	499	489	458	△ 31	
資産運用収入	58	59	86	27	
資産売却差額	26	26	—	△ 26	
事業収入	92	91	91	△ 0	
雑収入	250	252	90	△ 162	
帰属収入合計	5,222	5,232	4,983	△ 249	
基本金組入額合計	△ 661	△ 535	△ 359	176	主としてヴァージニア・クラークソン記念館新築工事やコムセンター改修などに伴う第1号基本金組入や奨学金の充実を図るための第3号基本金組入を予定しています。
消費収入の部合計	4,561	4,697	4,624	△ 73	

消費支出の部					
科 目	2013年度 予算	2013年度 決算(A)	2014年度 予算(B)	(B)-(A)	2014年度当初予算の内容
人件費	3,096	3,093	2,952	△ 141	資金収支計算書から退職金支出を控除し、退職給与引当金繰入額を加算しています。
教育研究経費	1,353	1,341	1,477	136	資金収支計算書に減価償却費(2億90百万円)を加算しています。内容は、資金収支計算書と同様です。
管理経費	351	333	381	48	資金収支計算書に減価償却費(32百万円)を加算しています。内容は、資金収支計算書と同様です。
借入金等利息	4	4	3	△ 1	資金収支計算書と同様です。
資産処分差額	12	15	12	△ 3	
徴収不能引当金繰入額	—	0	—	0	
消費支出の部合計	4,816	4,788	4,825	37	

当年度消費収入 (△支出)超過額	△ 255	△ 91	△ 200	△ 109	
前年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 886	△ 886	△ 1,141	△ 255	
翌年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 1,141	△ 977	△ 1,342	△ 365	

帰属収支差額	405	444	158	△ 286	
--------	-----	-----	-----	-------	--



学校法人 神戸女学院

〒 662-8505 西宮市岡田山 4-1 電話 0798-51-8508 (経理課)
<http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/index.html>